

統計でみる

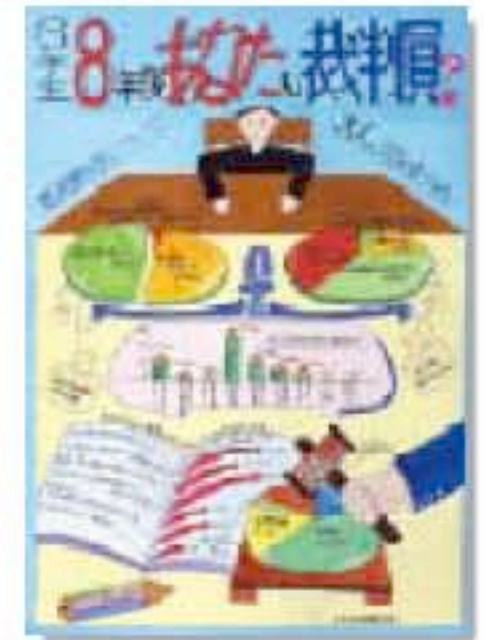
# 府民のくらし

平成18年度

統計でみる

府民のくらし

平成18年度



生かします。あなたにもらった 貴重なデータ

統計相談は統計課統計資料室で (TEL (075) 414-4487)

インターネットでも統計データ提供中

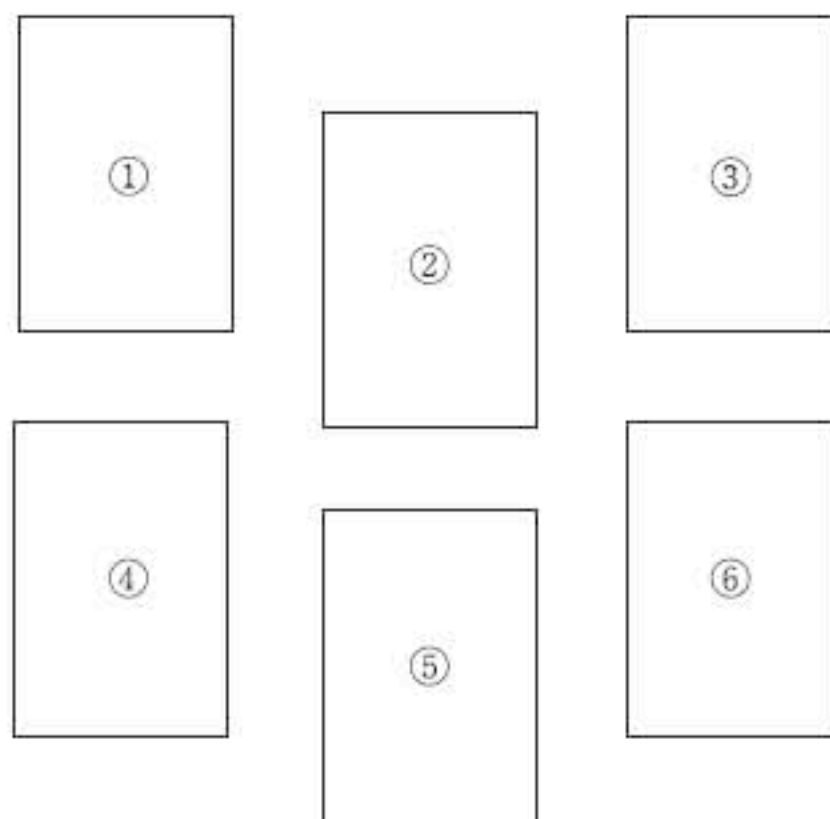
アドレス <http://www.pref.kyoto.jp/tokei/index.htm>

京都府

京都府



この冊子は再生紙(古紙50%)を使用しています。



- ① 「はたらく車しらべ」(小学校1・2年の部)  
南丹市立鶴ヶ岡小学校 2年 小林のぞみさん
- ② 「スポーツしている?小学生!」(小学校3・4年の部)  
南丹市立鶴ヶ岡小学校 3年 田口僚馬さん  
統計グラフ全国コンクール入選
- ③ 「6年生 8年後 あなたも裁判員?」(小学校5・6年の部)  
与謝野町立加悦小学校 6年 渡辺充望さん
- ④ 「天候不順で野菜高騰」(中学生の部)  
宇治市立西宇治中学校 2年 森下拓哉さん
- ⑤ 「もっと僕の側に…」(高校生以上及び一般の部)  
京都市立伏見工業高等学校 2年 林菜穂さん  
大澤陸さん  
中川路結花さん
- ⑥ 「八幡市の観光資源の活用に向けて」(パソコン統計グラフの部)  
京都府立南八幡高等学校 2年 横岩雄介さん  
江森正明さん

京都府統計グラフコンクールは毎年募集しています。

(締切り=9月上旬)

お問い合わせ: 京都府統計協会

(京都府総務部統計課内 TEL(075)414-4487 FAX(075)414-4482)

## まえがき

この度、平成18年度版「統計でみる府民の暮らし」を作成しました。

この冊子は、京都府の人口、経済、社会、文化など広い分野にわたる主要な統計資料をグラフ化し、解説を加えて分かりやすくまとめ、府民の皆様に統計に親しんでいただけるよう編集したものです。

身近な統計資料として広く活用いただければ幸いです。

平成19年3月

京都府知事

山田啓二

# 目 次

シンボル・なりたち……………1	道路・運輸……………25
位 置……………2	交通事故・火災・救急……………26
地勢・気象……………3	犯罪・少年非行……………27
人 口……………4	医 療……………28
消費者物価……………8	健 康……………30
家 計……………9	社会福祉……………31
労 働……………10	教 育……………32
農 林 業……………12	文 化……………34
漁 業……………15	生活時間・余暇……………35
事 業 所……………16	府民経済計算……………36
工 業……………17	財 政……………38
商 業……………20	統計でみる府の位置づけ……………39
観 光……………21	京都府の1日……………40
環 境……………22	市町村の現況……………42
エネルギー……………23	都道府県の現況……………48
住 宅……………24	統計調査実施一覧……………54

## 利用者のために

- 1 統計グラフで「年」とあるのは暦年（1月～12月）、「年度」とあるのは会計年度（4月～翌年3月）を示し、年月日は調査時点を示します。
- 2 単位未満を四捨五入したために、総数とその内訳の計とが一致しない場合があります。
- 3 統計表の符号の用法は次のとおりです。
 

— 該当なし又は皆無	… 不詳又は資料なし
0 単位未満	X 統計法第14条の秘密保護
- 4 詳しい統計は「京都府統計書」等を参考にしてください。
- 5 国勢調査については、平成19年2月末時点で集計結果が公表されているものについては平成17年国勢調査結果を、それ以外は平成12年国勢調査結果を使用しています。

# シンボル・なりたち

## 京都府の府章



憲法公布30周年を機に制定。六葉形は古都の格調の高さ、中央は「京」の文字を表したもので、府民の連帯性と力の結合を象徴しています。  
(昭和51年制定)

## 京都府の鳥（オオミズナギドリ）

舞鶴市冠島に2月から11月頃まで生息する渡り鳥。魚群を教えるため“サバ鳥”とも呼ばれます。



(昭和40年制定)

## 京都府の草花（嵯峨ぎく）



京都嵯峨の地に源を発する古典ぎくで、その名称からも、京都を強くイメージ・象徴しています。

(平成2年制定)

## 京都府の花（しだれ桜）



流れるような柔らかさ、うす紅色の花をつけた美しさは京情緒そのもの。風雪に折れないシンの強さが、京都人気質に通じます。

(昭和29年制定)

## 京都府の木（北山杉）

京都市北区中川町一帯で生産される北山杉。木立が天に向かってまっすぐ伸びる姿は“伸びゆく京都”の象徴です。

(昭和41年制定)



## 京都府の草花（なでしこ）



古典によく詠まれ、また、鴨川の河原に「かわらなでしこ」が自生し、古来より府民に愛されてきました。

(平成2年制定)

## — 京都府のなりたち —

京都は古くから文化が栄えてきました。府内各地では、原始時代や古代の遺跡が数多く発見されています。延暦13年(794)には平安京がつくられ、それ以来明治維新まで千年余の間、日本の中心として発展してきました。

京都府がはじめて設けられたのは慶応4年(1868)閏4月29日(新暦6月19日)のことで、その時はまだ山城国(現在の京都市から相楽郡までの地域)1国でした。その後、明治4年(1871)の廃藩置県により区域は山城国の全部と丹波3郡(船井=現南丹市の一部及び京丹波町の一部、何鹿=現綾部市、桑田=現亀岡市及び北桑田郡(=現南丹市の一部及び京都市の一部))になり、明治9年に隣接の豊岡県が廃止されたことに伴い、そのうち丹後5郡(加佐=現舞鶴市・大江町(=現福知山市の一部)、与謝=現与謝野町・伊根町、中、竹野、熊野=現京丹後市)と丹波国天田郡(現在の福知山市の一部)が京都府に編入されました。さらに昭和33年には南桑田郡榎田村と亀岡市の一部が大阪府に編入され、現在の京都府の区域となりました。

京都府内の市町村数は、昭和元年には268でしたが、市町村合併、市町村制施行が推進され、平成9年4月に12市32町1村になりました。さらにその後の市町村合併により、平成16年4月1日に丹後6町(峰山、大宮、網野、丹後、弥栄、久美浜)が京丹後市となり、平成17年4月1日に京北町が京都市に編入合併され、同年10月11日に船井3町(丹波、瑞穂、和知)が京丹波町となりました。また、平成18年1月1日に他の船井3町(園部、八木、日吉)及び美山町が南丹市となり、天田2町(三和、夜久野)及び大江町が福知山市に編入合併され、平成18年3月1日に与謝3町(加悦、岩滝、野田川)が与謝野町となり、平成19年3月12日に相楽3町(山城、木津、加茂)が木津川市となり、現在は15市10町1村となっています。

また、京都府の開庁は、京都裁判所が京都府に改称されたのが明治元年(1868)で、今年で139年となります。なお、府庁舎は、明治18年(1885)に現在地に移されましたが、現日本館の建物は明治37年(1904)に完成されたものです。

# 位 置

## 京都府の位置

方位	地名	経度	緯度
東端	相楽郡南山城村	東経136度03分	北経34度44分
西端	京丹後市久美浜町	◇ 134°51′ ◇	◇ 35°35′ ◇
南端	木津川市木津町	◇ 135°51′ ◇	◇ 34°42′ ◇
北端	京丹後市丹後町	◇ 135°13′ ◇	◇ 35°47′ ◇

資料：国土交通省国土地理院

## 主要河川

(単位：m)

河川名	上流端	延長
桂川	京都市左京区広河原尾花町	112,830
由良川	南丹市美山町芦生	124,276
木津川	相楽郡南山城村字北大河原	51,600
土師川	船井郡京丹波町鎌谷奥	42,927
上林川	綾部市老富町	33,733
竹野川	京丹後市大宮町五十河	32,605
牧川	福知山市夜久野町板生	29,060
淀川 (宇治川)	左岸 綴喜郡宇治田原町 右岸 宇治市笠取	24,545
鴨川	京都市北区雲ヶ畑	23,045

資料：府河川整備管理室



## 主要山岳

(単位：m)

山岳名	標高	所在地
ア 皆子山	972	京都市・滋賀県
イ 峰床山	970	京都市
ウ 三国岳	959	京都市・南丹市
エ 鎌倉山	951	京都市・滋賀県
オ 地藏山	948	京都市
カ 天狗岳	928	南丹市
キ 愛宕山	924	京都市
ク 竜ヶ岳	921	京都市
ケ 長老ヶ岳	917	南丹市・京丹波町
コ 棧敷ヶ岳	896	京都市
サ 経ヶ岳	889	京都市・滋賀県
シ 品谷山	881	京都市・南丹市
ス 滝谷山	876	京都市
セ 頭巾山	871	綾部市・南丹市・福井県
ソ 鍋谷山	859	京都市
タ 比叡山	848	京都市・滋賀県
チ 三岳山	839	福知山市
ツ 大江山	833	福知山市・与謝野町

資料：国土交通省国土地理院

# 地 勢 ・ 気 象

## 地 勢

平成17年10月1日現在の総面積は4613.00km<sup>2</sup>で、国土の1.2%を占め、47都道府県中31番目の広さとなっています。

地形は北西―南東に長く、タツノオトシゴのような形をしています。

北部は日本海に面し、変化に富むリアス式海岸が続き、小規模な平野が開けています。中部は大部分が山地ですが、亀岡、福知山盆地のほか、桂川、由良川の支流に沿って小盆地や河岸段丘が発達しています。南部は桂川・淀川(宇治川)・木津川の合流点を要に、山城盆地が扇状に広がっています。

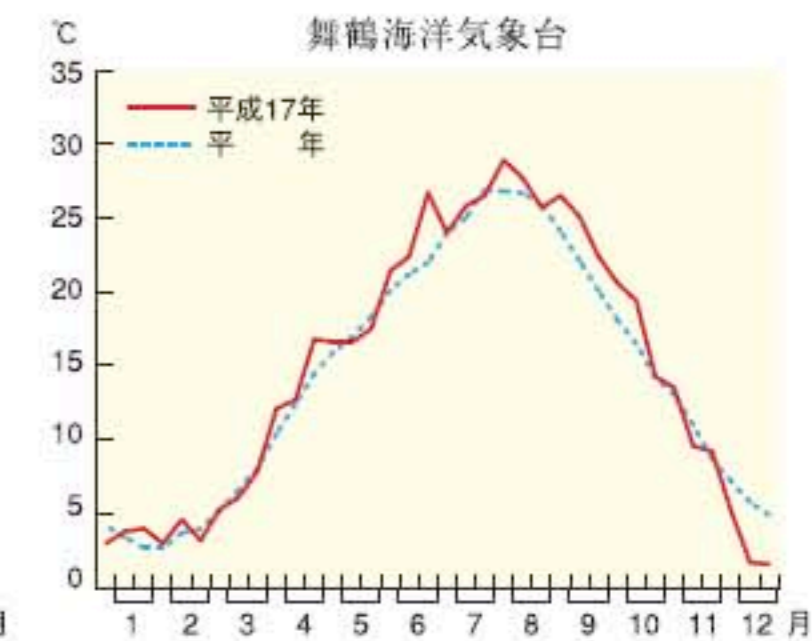
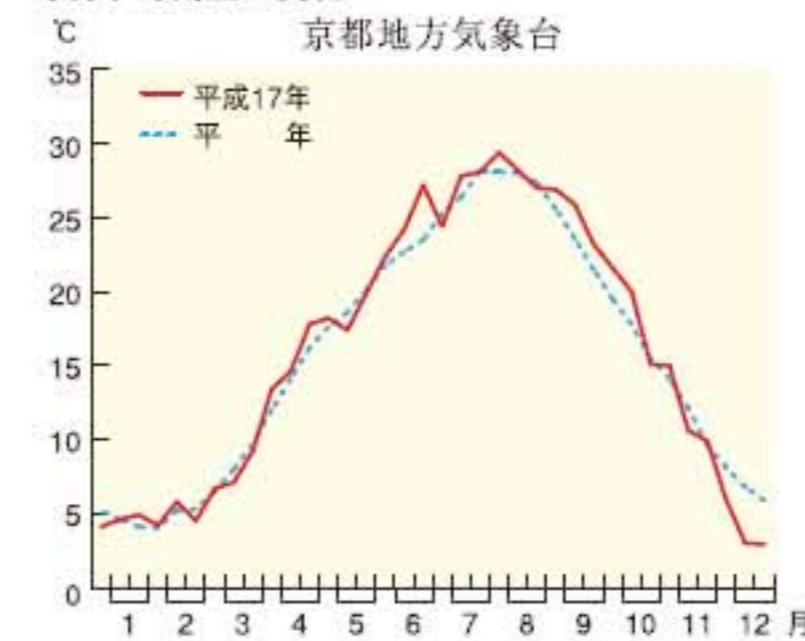
## 気 象

気象は、大阪湾に注ぐ淀川水系と日本海に注ぐ由良川水系の分水嶺に沿って南部と北部に分かれます。

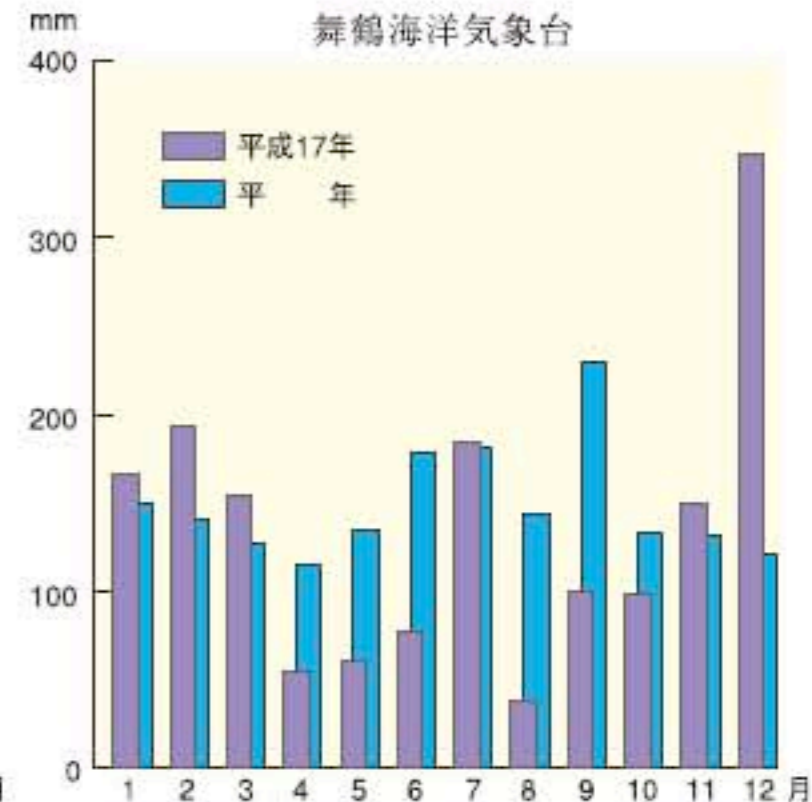
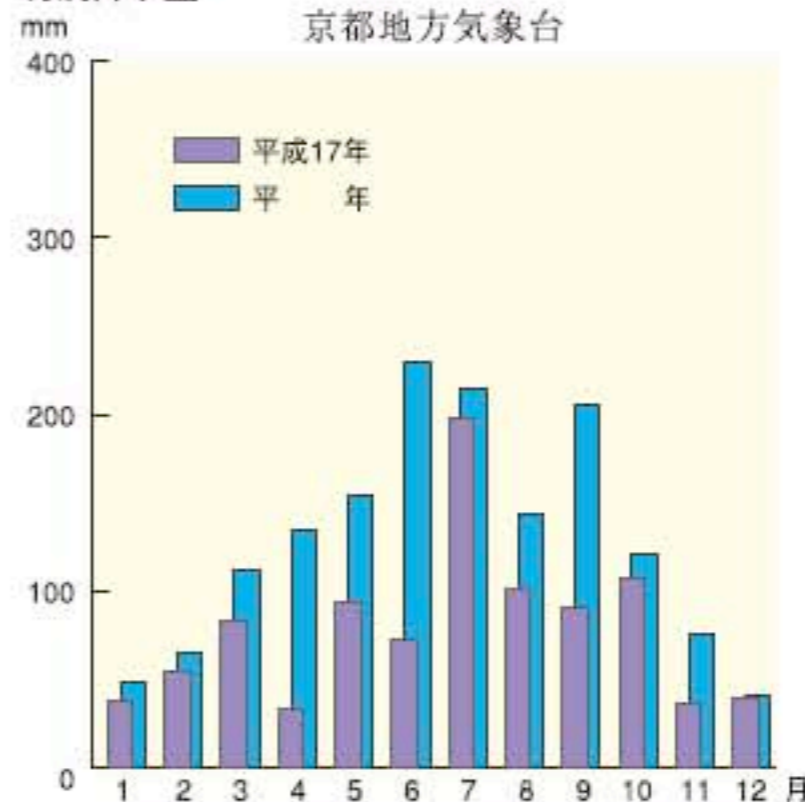
北部は日本海気候、南部は瀬戸内気候の特性を示します。北部でも丹後半島地域は日本海側の特性が顕著で、福知山盆地から丹後山地一帯は内陸性の気候です。舞鶴湾・宮津湾付近一帯はその両者の中間の気候です。

これに対し、南部は亀岡盆地から南山城山間部にかけては、内陸性の気候です。京都市の市街地では、近年平均気温の上昇など、都市気候化の傾向が認められます。

## 旬別平均気温の変化



## 月別降水量



注 平年値は1971～2000年平均。  
資料：京都地方気象台(京都府気象月報)

# 人口（人口と世帯数）

## 人口・世帯数

平成17年10月1日現在の人口は、264万7660人（男127万2993人、女137万4667人）となっています。市町村別にみると、京都市が147万4811人と最も多く、次いで宇治市18万9591人、亀岡市9万3996人、舞鶴市9万1733人と続いています。5年前と比較すると、増加率が最も高かったのは、精華町の29.9%で、以下、木津町16.2%、京田辺市7.4%となっており、関西文化学術研究都市を中心に増加傾向が続いています。

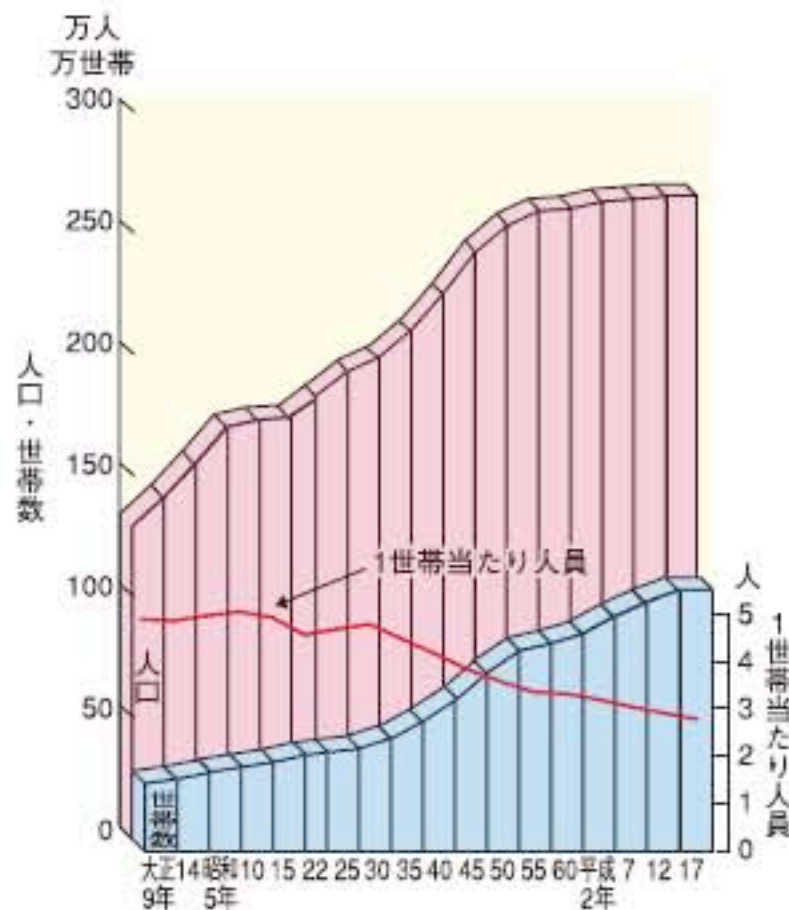
また、世帯数は107万9041世帯で、1世帯当たりの人員は2.45人と、引き続き減少傾向にあります。

5年間の人口増減分布図（平成12年～平成17年）



資料：総務省統計局（国勢調査）

## 人口と世帯数の推移

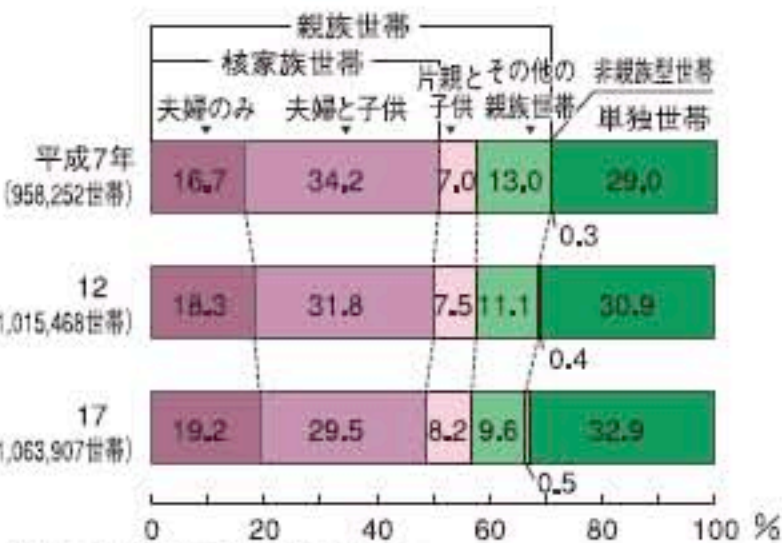


資料：総務省統計局（国勢調査）

## 家族類型別世帯数

平成17年の家族類型別世帯数をみると、一般世帯106万3907世帯のうち核家族世帯60万5751世帯、単独世帯35万468世帯、その他の親族世帯10万2490世帯、非親族世帯5198世帯となっており、単独世帯が増加しています。

## 一般世帯の家族類型別割合の推移



資料：総務省統計局（国勢調査）

# 人口（年齢別人口）

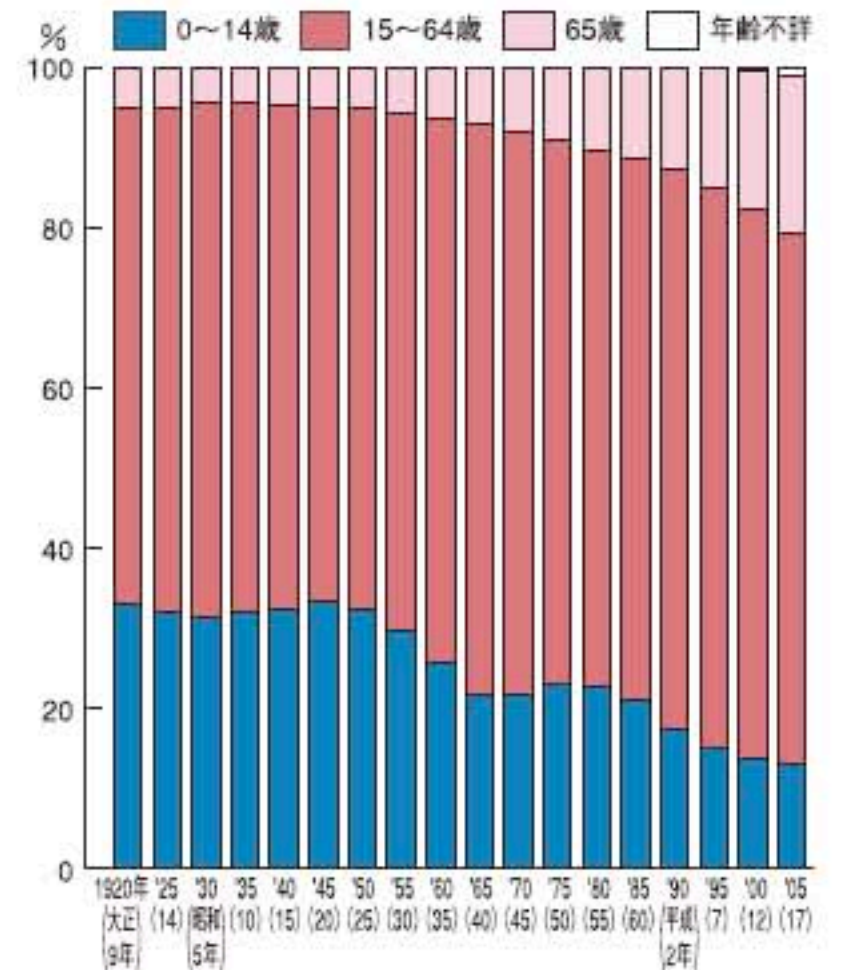
## 年齢3区分別人口

年齢3区分別人口の推移をみると、0～14歳の年少人口の割合は、昭和20年の33.4%から昭和40年の21.5%まで急速に低下した後、昭和50年にはやや上昇しましたが、昭和55年から再び低下を続け、平成17年には13.0%と過去最低の割合になりました。

15～64歳の生産年齢人口の割合は、昭和20年に61.5%まで低下した後は上昇を続け、昭和40年には71.5%となりました。その後緩やかに低下、上昇した後、平成12年から再び低下に転じ、平成17年には66.3%となりました。

65歳以上の老年人口の割合は、昭和15年の4.6%以降上昇を続け、昭和55年には、10.2%と初めて10%台に、平成17年には20.0%と20%台になり、人口の老年化が進行しています。

年齢3区分人口割合の推移



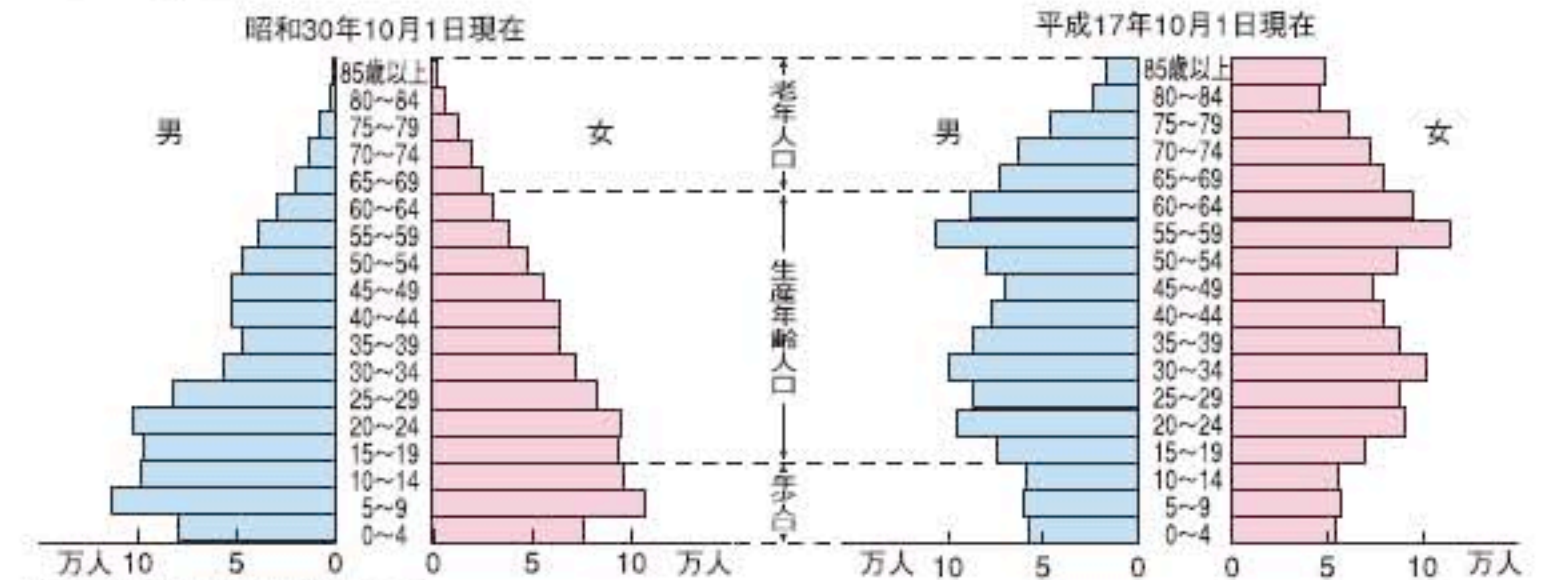
注 1945年（昭和20年）は人口調査結果  
資料：総務省統計局（国勢調査）

## 男女・年齢別人口

平成17年の年齢別人口を50年前の昭和30年と比較すると、年少人口は57万1910人（男29万1728人、女28万128人）から34万5071人（男17万6226人、女16万8845人）と約6割に減少

しましたが、老年人口は11万1017人（男4万5224人、女6万5793人）から53万350人（男22万1972人、女30万8378人）へと約5倍に増加しました。

## 男女・年齢別人口



資料：総務省統計局（国勢調査）

# 人口 (人口動態)

## 自然動態 (出生・死亡数)

平成17年の出生数は2万1560人、死亡数は2万2134人で、差し引き574人の減少となっています。死亡数が出生数を上回ったのは昭和20年以来60年ぶりとなりました。出生数は第二次ベビーブーム期の昭和48年をピークに、その後急激に減少し、平成17年は過去最低となりました。

## 社会動態 (他府県との転入・転出)

平成17年に他府県から京都府へ転入した人は5万9905人、他府県へ転出した人は6万2126人で、差し引き2221人の減少となっており、昭和53年以降は、昭和57、58年及び平成7年を除いて転出超過傾向が続いています。

府県別にみると、転入者は大阪府からが最も多く1万3742人、次いで兵庫県5525人、滋賀県5167人などとなっています。転出者も同じく大阪府へが最も多く1万4572人、次いで滋賀県6716人、兵庫県5840人などとなっています。

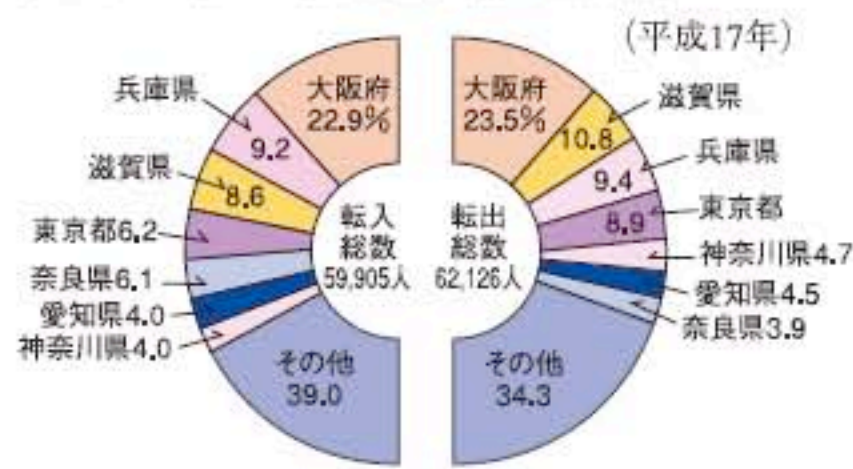
## 婚姻・離婚率

平成17年の婚姻件数は1万4030件で、婚姻率(人口千対)は5.4となっています。一方、離婚件数は5116件で、離婚率(同)は1.97となっています。

## 出生・死亡数の推移



## 他府県との転入・転出状況 (府県別割合)



## 婚姻率の推移



## 離婚率の推移



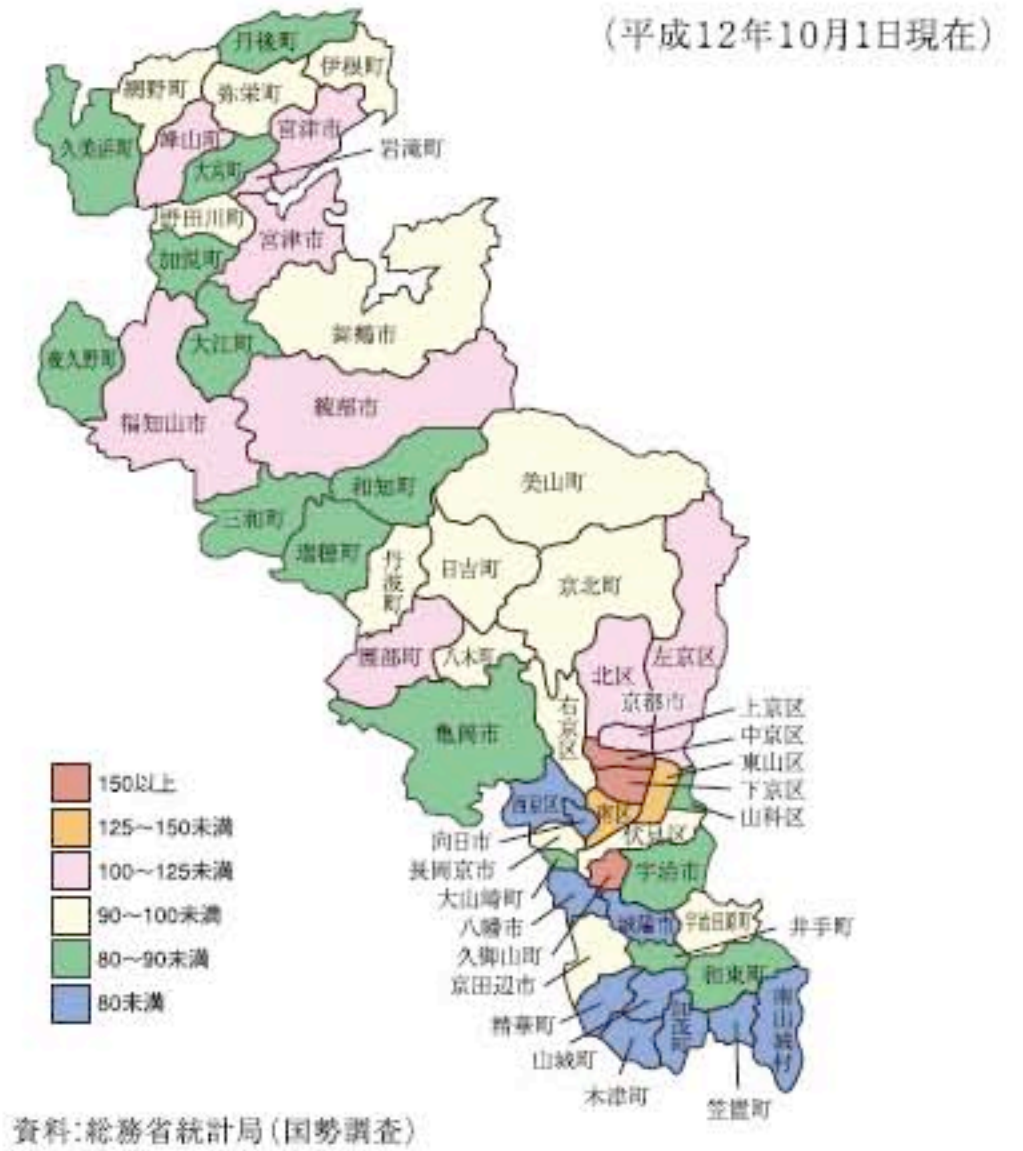
# 人口 (流入・流出)

## 昼間人口

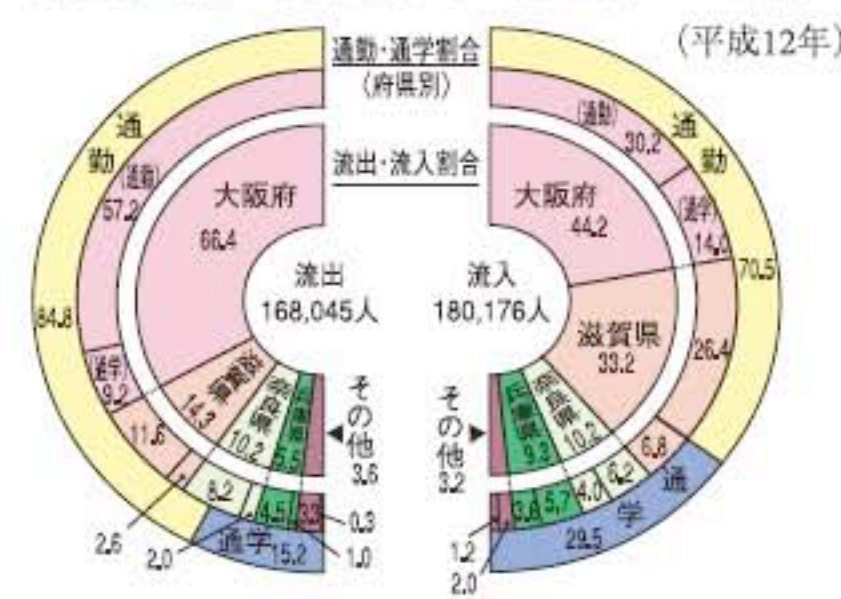
平成12年10月1日現在の昼間人口は264万2551人(年齢不詳を除く)で、これは夜間人口の263万37人(同)に流入超過1万2514人を加えたもので、昼夜間人口比率(夜間人口100に対する昼間人口比率)は100.5となっています。

市町村別にみると、流入超過となっているのは久御山町、峰山町、福知山市、京都市、宮津市、園部町、綾部市、岩滝町の4市4町です。京都市では、下京区、中京区で昼夜間人口比率が150を超えているのをはじめ、南区、東山区、上京区、北区、左京区で100を超えています。

## 市区町村別昼夜間人口率



## 府県別15歳以上通勤・通学者の流出・流入人口割合



## 府県別流出・流入人口

平成12年における通勤や通学のため他府県へ流出する人口は16万9756人、逆に他府県から京都府に流入してくる人口は18万2270人で、差し引き1万2514人の流入超過となっています。

このうち、15歳以上の通勤・通学者についてみると、流出は16万8045人(通勤14万2562人、通学2万5483人)で、その移動先は大阪府が11万1544人で最も多く、66.4%を占めています。

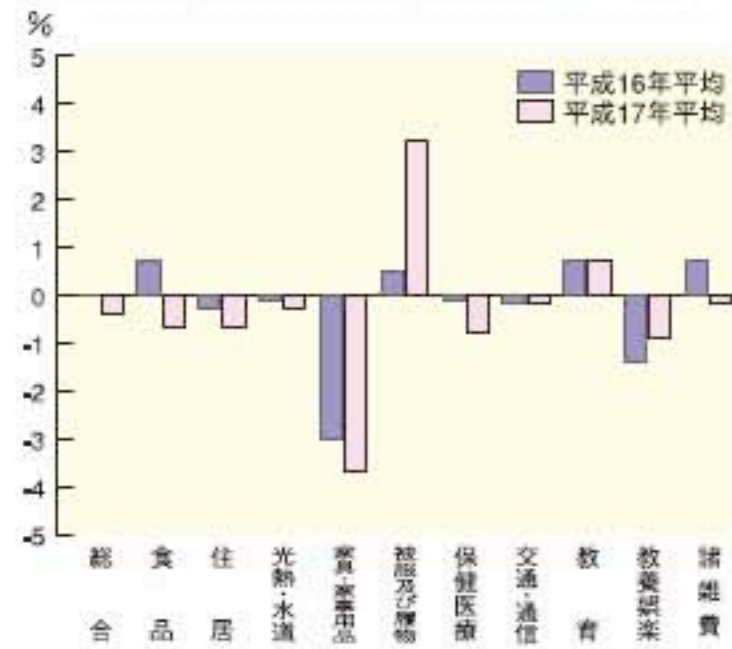
一方、流入は18万176人(通勤12万6978人、通学5万3198人)で、その常住地の内訳は大阪府が7万9580人、滋賀県5万9785人などとなっています。

## 消費者物価指数

平成17年平均の京都市消費者物価指数は、総合で98.2（平成12年=100）となり、前年比-0.4%となりました。

最近の対前年上昇率をみると、平成9年は消費税率の引き上げが響き2%を超える上昇となり、その影響が一段落した10年は1.1%上昇しましたが、11年、12年は0.2%、0.8%とそれぞれ下落し、13年、14年はともに0.5%、15年は0.4%の下落、16年は前年比変わらずとなりましたが、17年は再び下落しました。

## 京都市消費者物価指数費目別対前年上昇率



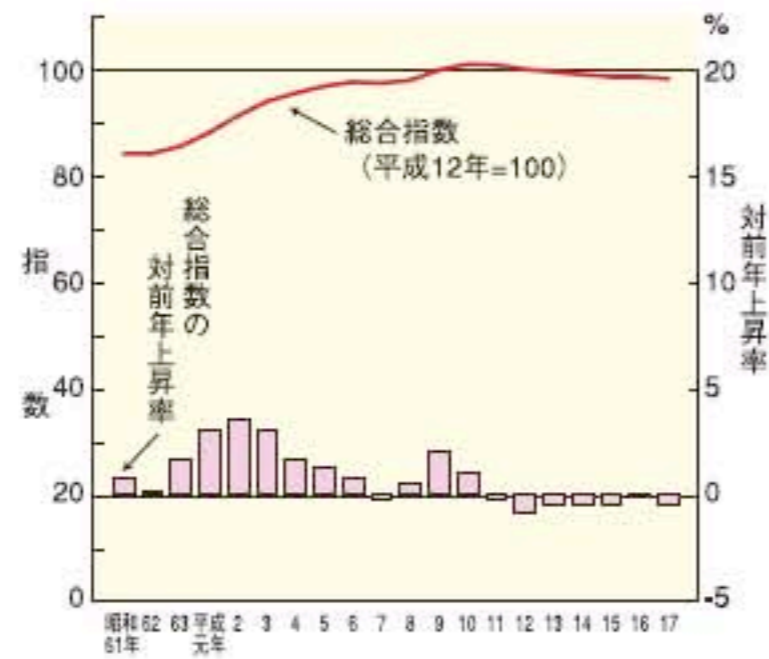
資料:総務省統計局(消費者物価指数)

## 地域別消費者物価地域差指数

平成14年の北部、中部、京都・乙訓、南部4ブロック別の消費者物価地域差指数（京都府=100）は、総合で北部95.8、中部93.2、京都・乙訓103.0、南部95.2となっています。費目別にみると、地域格差の大きいのは被服及び履物（30.6ポイント差）、交通・通信（18.5ポイント差）、住居（17.5ポイント差）で、小さいのは保健医療（1.5ポイント差）となっています。

なお、全国平均を100とした都道府県別の地域差指数では、京都府は102.4となり、東京都、神奈川県に次いで高くなっています

## 京都市消費者物価指数の推移

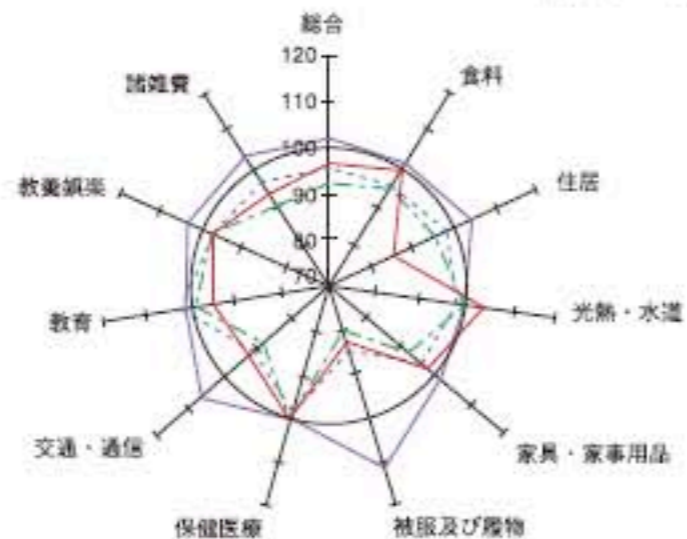


資料:総務省統計局(消費者物価指数年報)

## 費目別対前年上昇率

平成17年平均の消費者物価指数の対前年上昇率を費目別にみると、上昇したのは被服及び履物3.2%、教育0.7%となっています。一方下落したのは家具・家事用品3.7%、教養娯楽0.9%、保健医療0.8%などとなっています。また、家具・家事用品、教養娯楽の下落が、総合指数の下落に大きく影響を与えています。

## 地域別消費者物価地域差指数(京都=100) (平成14年)



注 北部ブロック:舞鶴市、綾部市、峰山町  
 中部ブロック:亀岡市、園部町  
 京都・乙訓ブロック:京都市、長岡京市  
 南部ブロック:宇治市、城陽市、久御山町

資料:総務省統計局(全国物価統計調査)

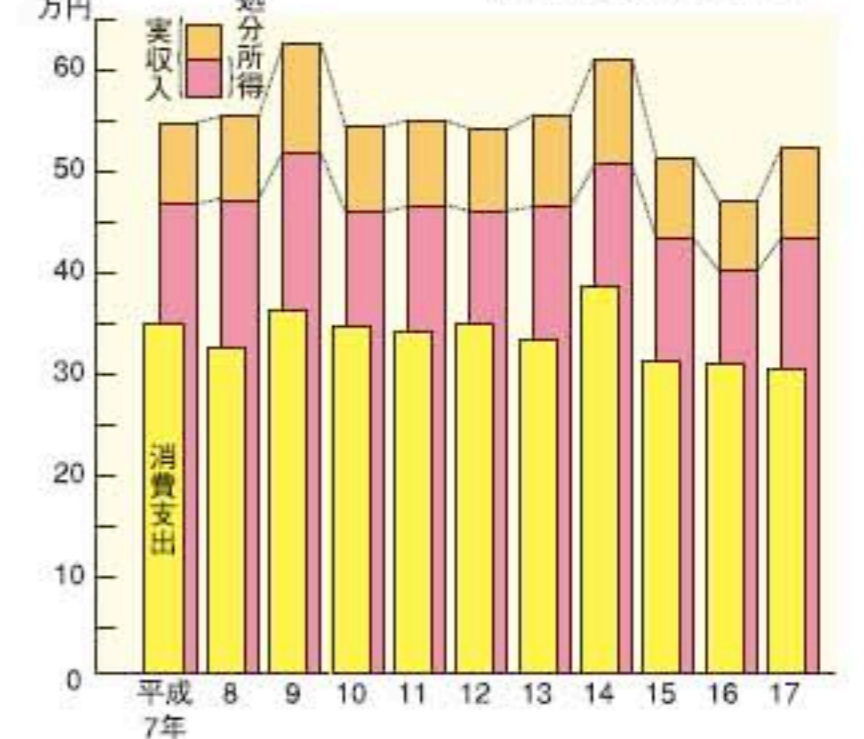
## 実収入、可処分所得及び消費支出

平成17年の京都市における勤労者世帯1世帯当たりの1か月平均実収入は52万1091円、可処分所得は43万1317円で、実収入に対する可処分所得の割合は82.8%となり前年（85.1%）に比べ2.3ポイント減少しました。

消費支出は30万2256円で前年に比べ名目で1.6%減、消費者物価上昇分を差し引いた実質で1.2%減となりました。

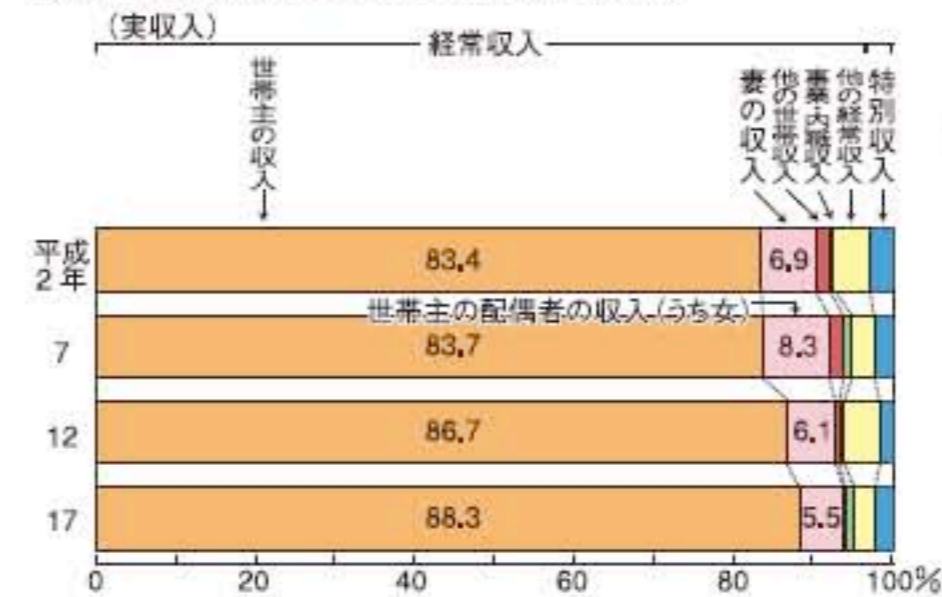
注 実収入は税込みの収入。可処分所得は手取り収入で、実収入から税金、社会保障費などの非消費支出を除いたものである。

## 実収入と可処分所得及び消費支出の推移 (京都市勤労者世帯)



資料:総務省統計局(家計調査)

## 実収入と実支出の推移(京都市勤労者世帯)

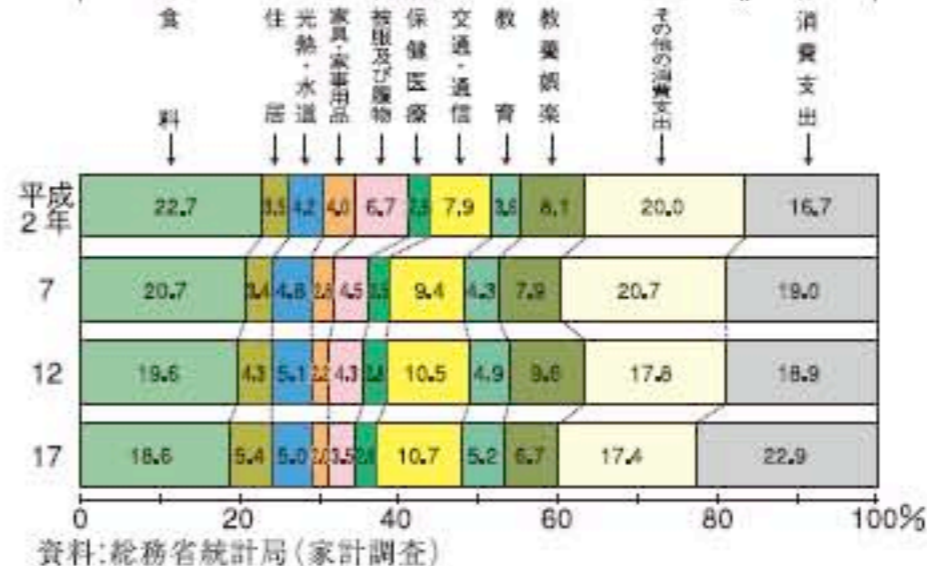


注 平成5年から「妻の収入」は「世帯主の配偶者の収入」の中の「うち女」に変更。

## 実収入の構成比

平成17年の京都市における勤労者世帯1世帯当たり実収入の構成比をみると、世帯主収入88.3%、世帯主の配偶者の収入（うち女）5.5%、特別収入2.2%などとなっています。

## 実支出の構成比



資料:総務省統計局(家計調査)

平成17年の京都市における勤労者世帯1世帯当たり実支出の構成比をみると、消費支出77.1%（食料18.6%、その他の消費支出17.4%、交通・通信10.7%、教養娯楽6.7%など）、非消費支出22.9%となっています。

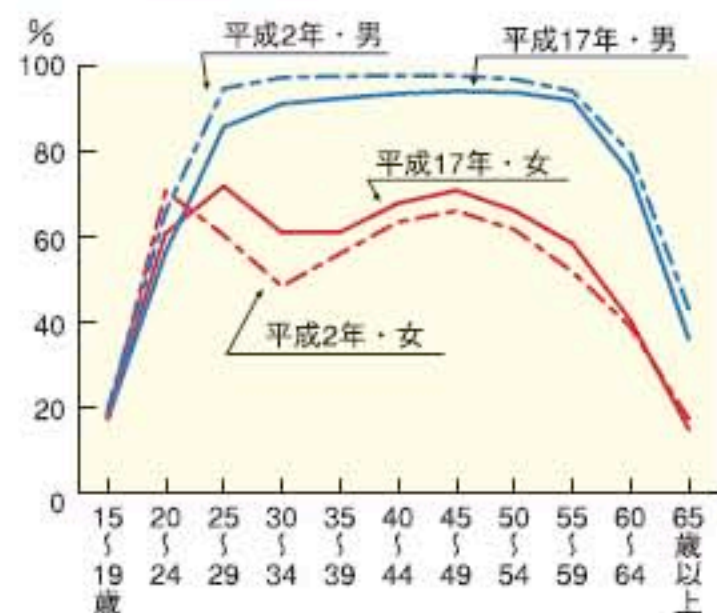
# 労働（就業構造・求人倍率）

## 男女・年齢別労働力率

15歳以上人口は、平成17年10月1日現在228万5797人で、そのうち就業者と完全失業者を合わせた労働力人口は132万8122人、労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）は58.1%となっています。

年齢階級別労働力率を男女別にみると、男は15～24歳と65歳以上を除いていずれも高く逆U字型になっていますが、女は25～29歳と45～49歳をピークとしたM字型となっています。

## 男女・年齢別労働力率

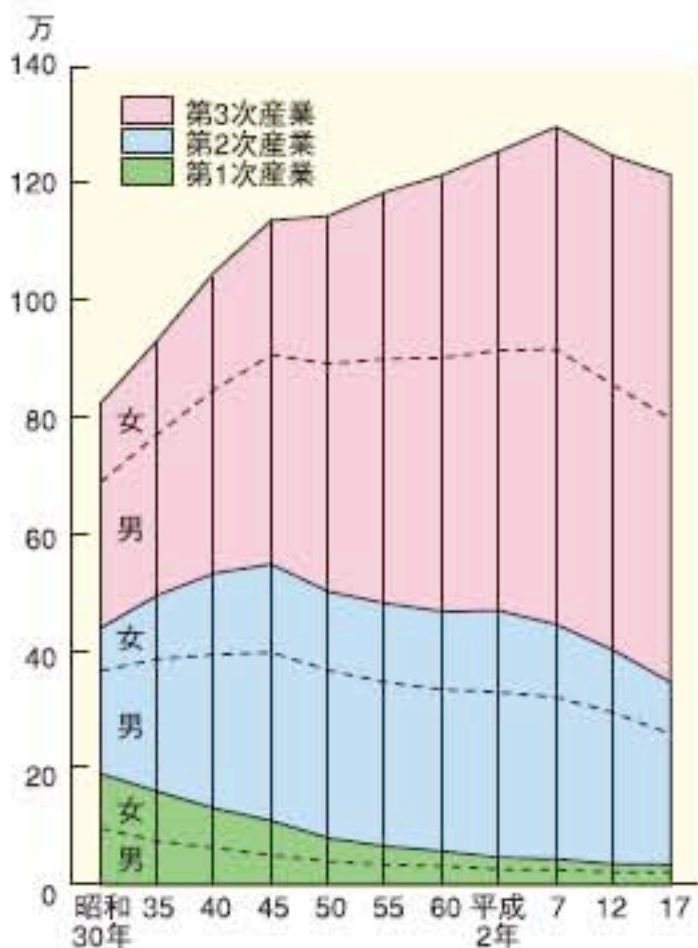


資料：総務省統計局（国勢調査）

## 産業3部門別就業者数

15歳以上就業者数（分類不能を含む）は、平成17年10月1日現在124万8020人（男71万5838人、女53万2182人）で、産業3部門別にみると、第1次産業3万3764人（構成比2.7%）、第2次産業31万2201人（同25.0%）、第3次産業86万8092人（同69.6%）となっています。

## 産業3部門別就業者数の推移



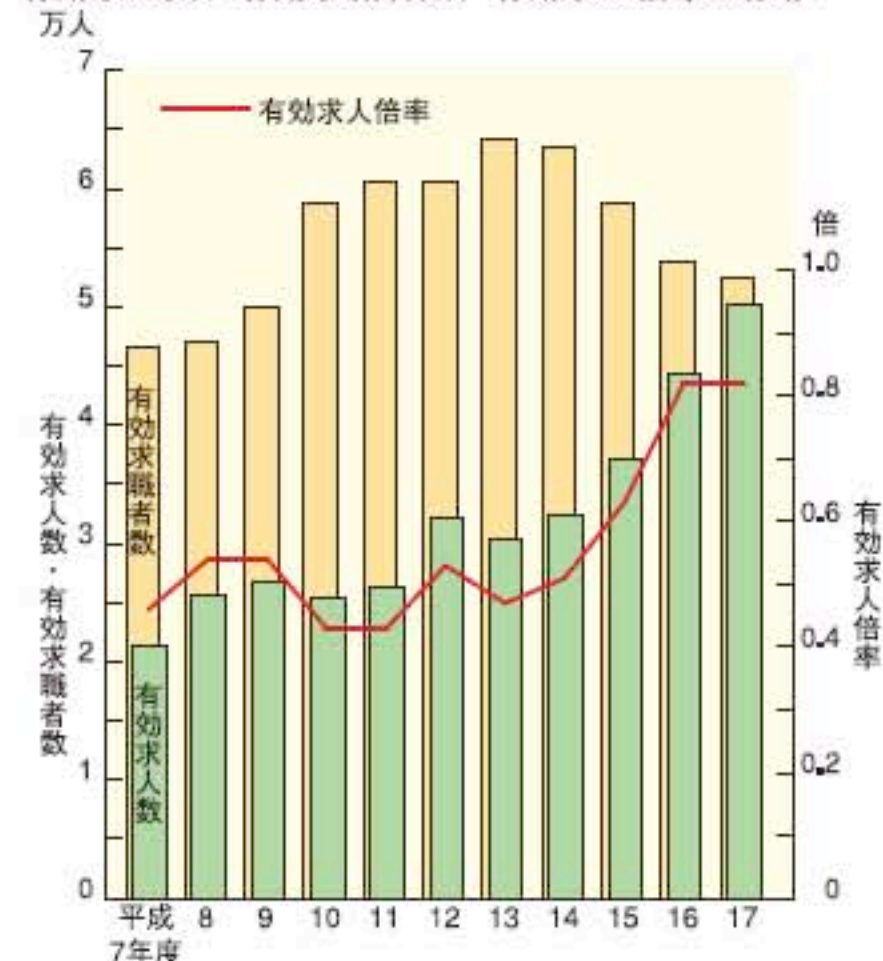
注 分類不能を除く。  
資料：総務省統計局（国勢調査）

## 有効求人数、有効求職者数、有効求人倍率

平成17年度の月平均有効求人数は5万205人で、前年度に比べ5590人、13.5%の増加となり、月平均有効求職者数は5万2500人で、前年度に比べ1218人、2.3%の減少となりました。

有効求人数を有効求職者数で除した有効求人倍率は0.82倍で、前年度と変わりませんでした。

## 有効求人数、有効求職者数、有効求人倍率の推移



注1 パートタイムを含む。  
2 有効求人数、有効求職者数は各年度1か月平均値。  
資料：京都労働局

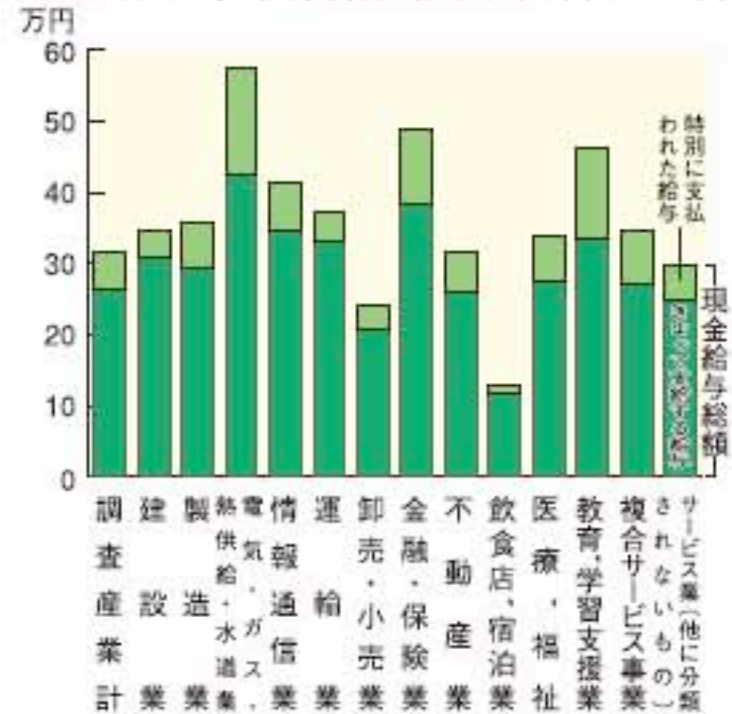
# 労働（賃金・労働時間・労働組合）

## 賃金（常用労働者5人以上）

平成17年の常用労働者の1人平均月間現金給与総額は31万6811円で、このうちきまって支給する給与は26万2727円、特別に支払われた給与は5万4084円となっています。

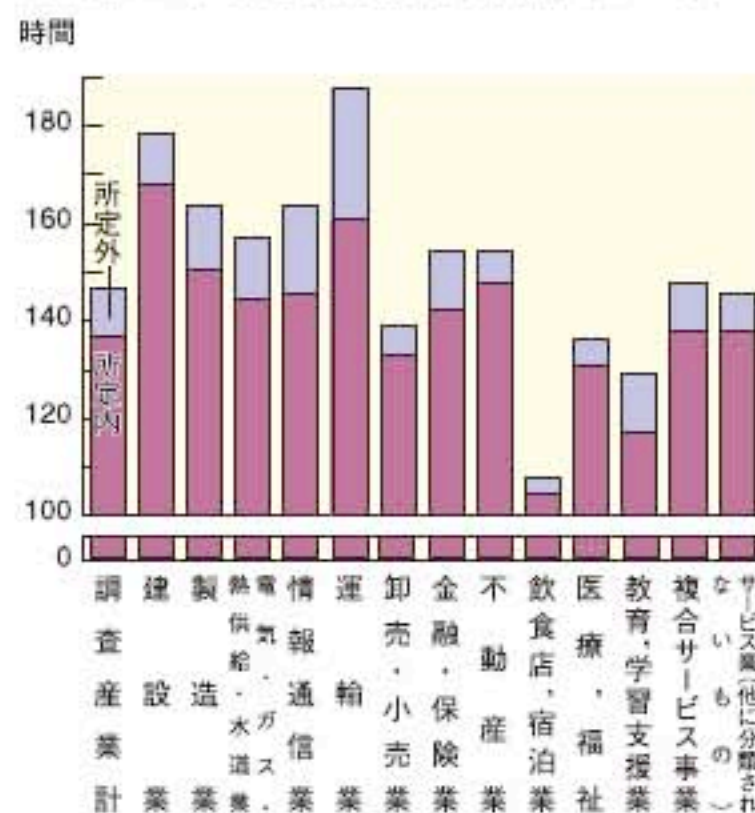
名目賃金指数（平成12年=100）は96.5、実質賃金指数は98.7となっています。

## 産業別1人平均月間現金給与総額（平成17年）



注 常用労働者5人以上の事業所の数値。  
資料：府統計課（毎月勤労統計調査）

## 産業別1人平均月間総実労働時間（平成17年）



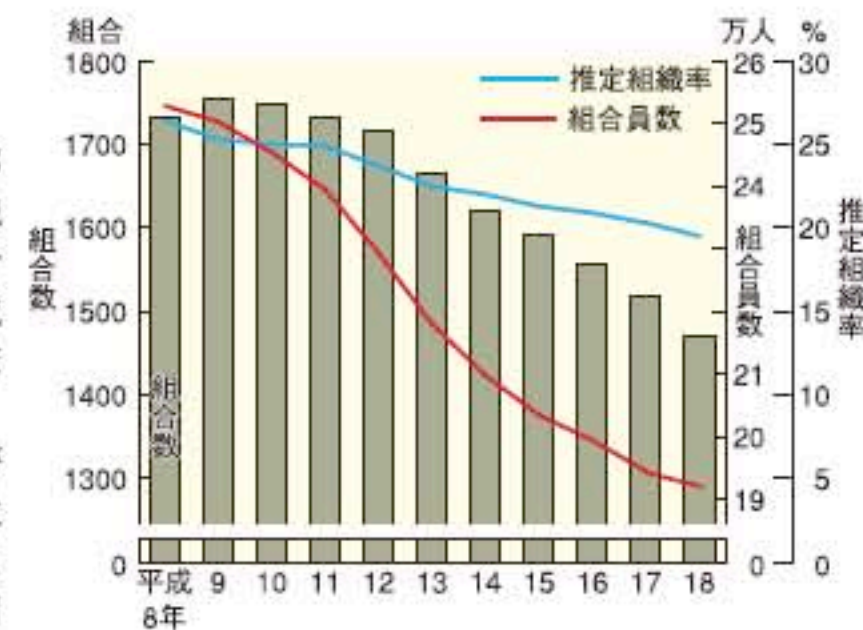
注 常用労働者5人以上の事業所の数値。  
資料：府統計課（毎月勤労統計調査）

## 労働時間（常用労働者5人以上）

平成17年の月平均総実労働時間は147.0時間（前年比0.9%減）で、このうち所定外労働時間は10.0時間（同1.0%増）となっています。

総実労働時間を産業別にみると運輸業が188.0時間、建設業が178.4時間の順で長く、飲食店、宿泊業が107.9時間、教育、学習支援業が129.2時間の順で短くなっています。

## 労働組合数、組合員数及び推定組織率の推移



注 各年6月30日現在。  
資料：府労政課（労働組合基礎調査）

## 労働組合数、組合員数及び推定組織率

平成18年6月30日現在の労働組合数は1473組合、組合員数は19万1747人、推定組織率は19.7%となっています。前年に比べ組合数は47組合、組合員数は2846人それぞれ減少となり、組織率でも0.6ポイントの低下となりました。

労働組合員数を産業別にみると、製造業が5万6302人（構成比29.4%）と最も多く、次いで建設業2万34人（同10.4%）、運輸業1万8258人（同9.5%）、公務1万8208人（同9.5%）などとなっています。



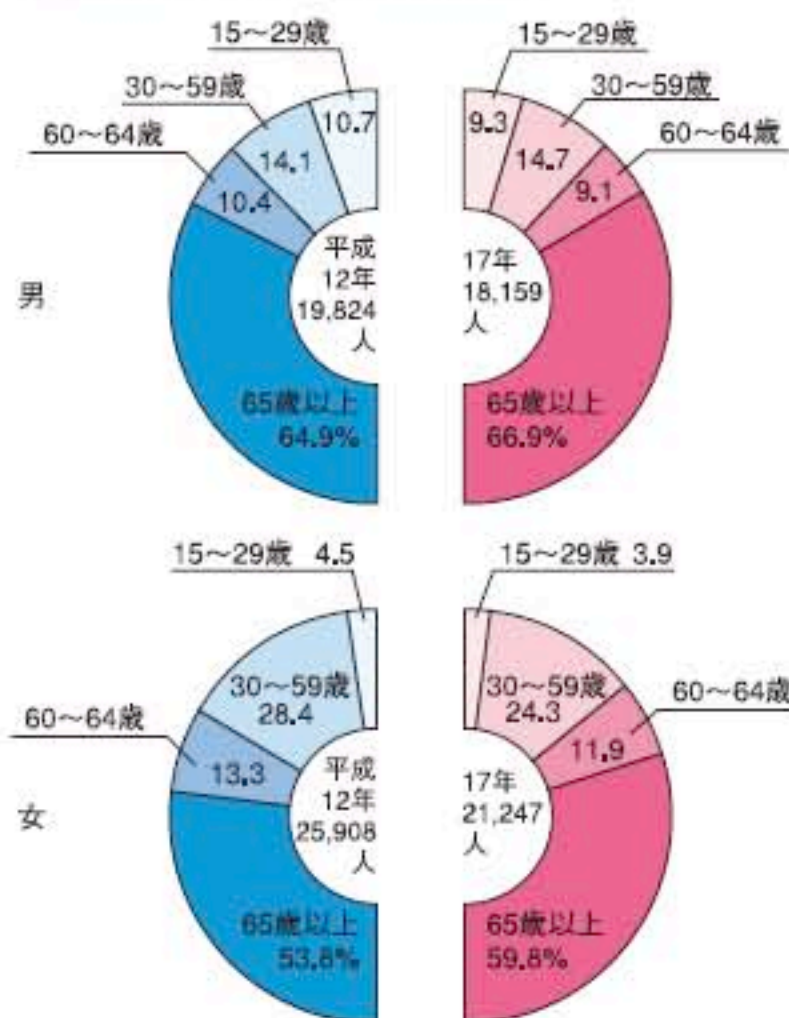
# 農林業（農家数と農業従事者）

## 農家数・農家人口

平成17年2月1日現在の農家数（販売農家）は2万4406戸で、5年前に比べ4451戸、15.4%減少しました。専業別にみると、専業農家は5382戸、第1種兼業農家が3087戸、第2種兼業農家が1万5937戸となっています。

農家人口（販売農家）は9万9653人で、5年前に比べ2万4779人、19.9%、農業就業人口（販売農家）は3万9406人で6326人、13.8%それぞれ減少しました

## 農業就業人口の男女別年齢別割合



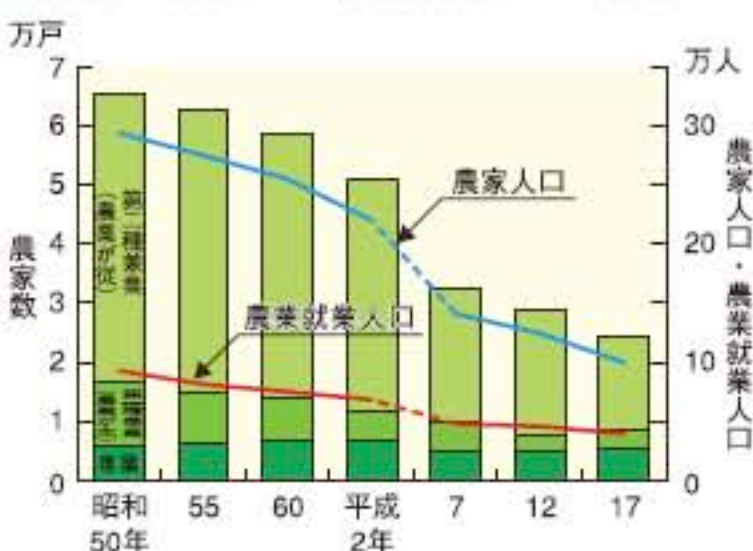
注1 各年2月1日現在。  
2 平成12年、17年とも販売農家。  
資料:農林水産省(世界農林業センサス、農業センサス)

## 経営耕地面積

平成17年2月1日現在の経営耕地面積（販売農家）は2万1148haで、5年前に比べ5393ha、20.3%減少しました。

種類別にみると、田1万7412ha（構成比82.3%）、畑2060ha（同9.8%）、樹園地1676ha（同7.9%）となっています。

## 農家数・農家人口・農業就業人口の推移

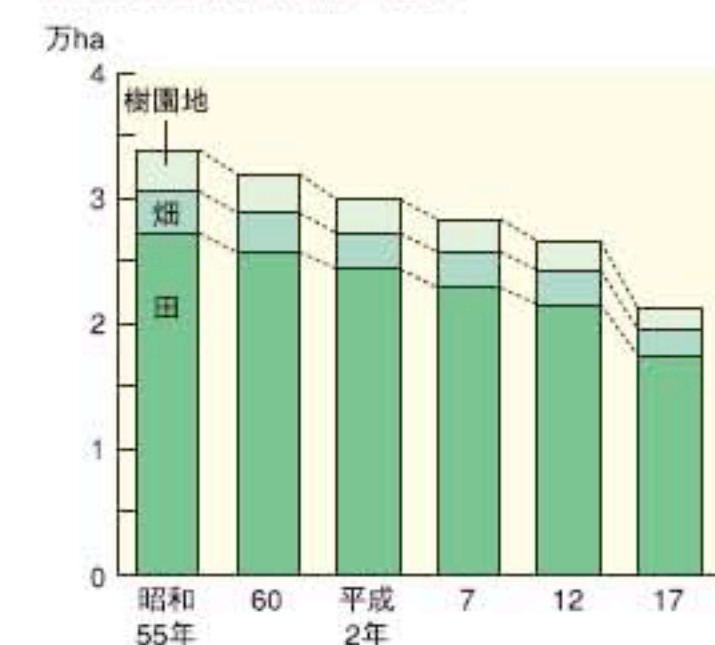


注1 各年2月1日現在。  
2 平成2年までは全農家、7年以降は販売農家。  
資料:農林水産省(世界農林業センサス、農業センサス)

## 農業就業人口の男女別年齢別割合

農業就業人口（農業に主として従事した人）の男女別割合は、女が53.9%を占め、男は46.1%となっています。年齢別にみると、65歳以上が男は66.9%、女は59.8%となっており、5年前に比べ男女とも65歳以上の割合が高くなっています。

## 種類別経営耕地面積の推移



注1 各年2月1日現在。  
2 平成12年までは全農家、17年は販売農家。  
資料:農林水産省(世界農林業センサス、農業センサス)

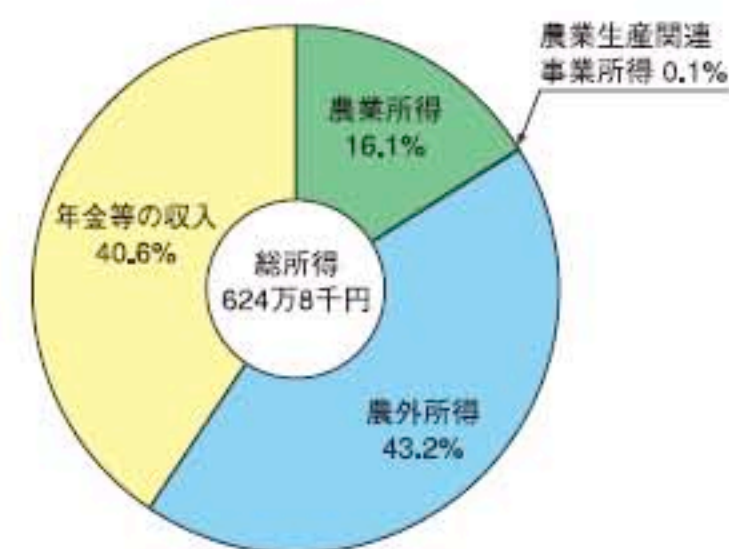
# 農林業（農業生産・米）

## 農家経済と農業依存度（販売農家）

平成16年の販売農家1戸当たり平均の農業所得は100万3千円となりました。この農業所得に、農業経営関与者の農業生産関連事業所得（4千円）、農外所得（270万2千円）、年金等の収入（253万9千円）を加えた総所得は624万8千円で、農業依存度は27.0%となりました。

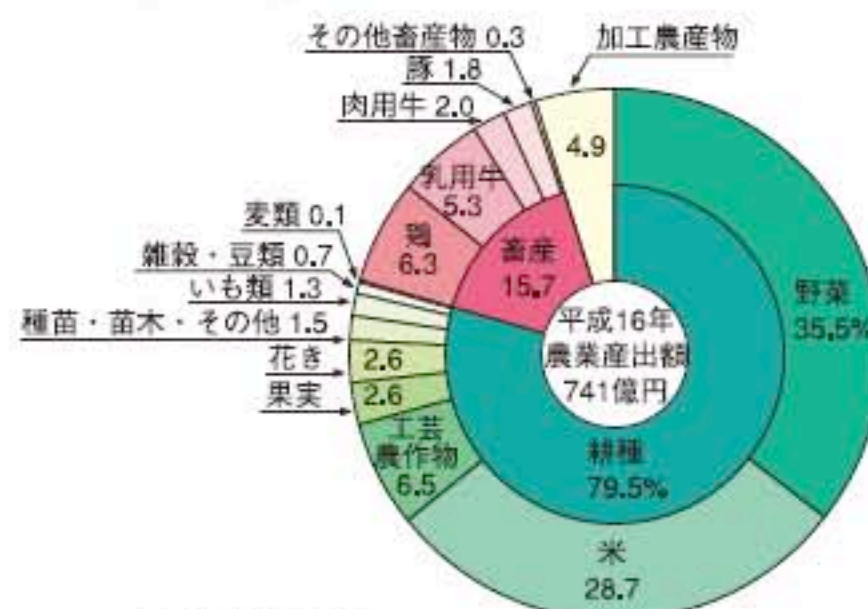
注1 農業依存度(%)  
= 農業所得 ÷ (農業所得 + 農業生産関連事業所得 + 農外所得) × 100  
2 調査期間は1月1日から12月31日まで。

## 販売農家1戸当たり総所得の内訳



資料:近畿農政局(農業経営統計調査)

## 農業産出額の内訳



資料:近畿農政局

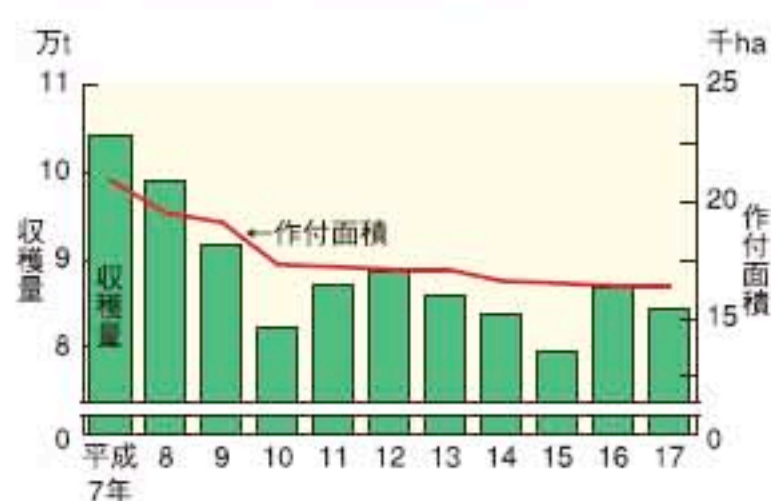
## 農業産出額

平成16年の農業産出額は741億円で、前年に比べ11億円、1.5%減少しました。内訳をみると、耕種が全体の79.5%を占め、次いで畜産15.7%、加工農産物4.9%となっています。品目別にみると、野菜が263億円で、全体の35.5%を占め、次いで米が213億円、28.7%となっており、この2品目で全体の64.2%を占めています。

## 水稻の作付面積と収穫量

平成17年の水稻の作付面積は1万6400ha、収穫量は8万4500tで、10a当たり収量は515kgとなっています。前年に比べ作付面積は200ha、1.2%、収穫量は2200t、2.5%、10a当たり収量は7kg、1.3%それぞれ減少しました。

## 水稻の作付面積と収穫量の推移



資料:近畿農政局

# 農林業（茶・畜産・林業）

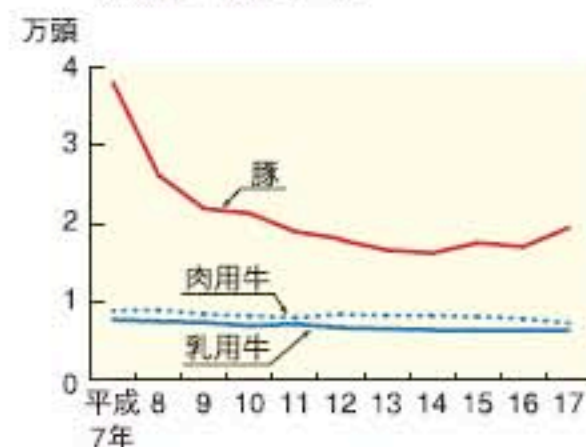
## 茶業

平成17年の荒茶生産量は2912tで、前年に比べ68t、2.4%増加し、生産額は78億3279万円で1699万円、2.2%増加しました。

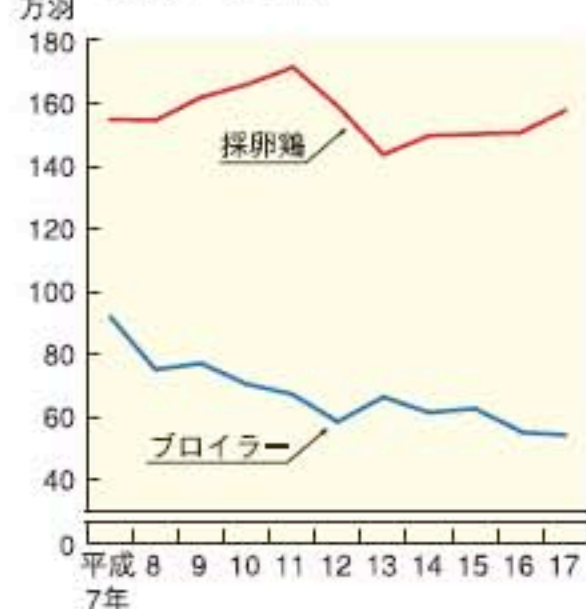
荒茶生産量を茶種別にみると、煎茶が1026tで全体の35.2%を占め、次いで番茶790t、27.1%、てん茶618t、21.2%、かぶせ茶349t、12.0%、玉露129t、4.4%となっています。

### 主要家畜飼養頭羽数の推移

—乳用牛・肉用牛・豚—



—採卵鶏・ブロイラー—



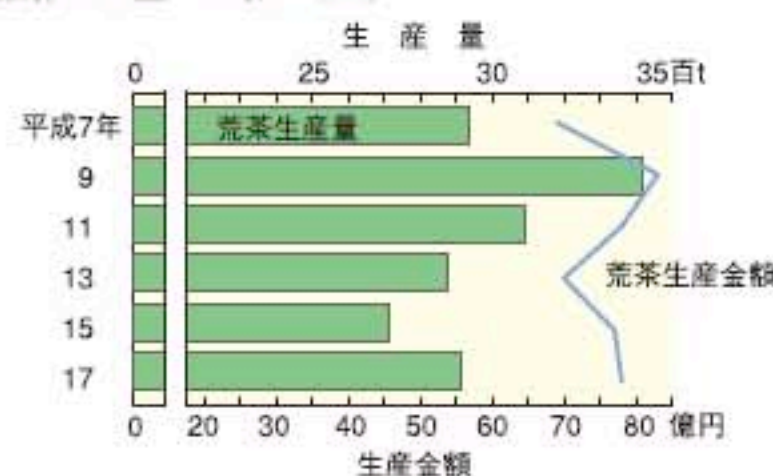
注 各年2月1日現在。  
資料:府畜産課(畜産の動向)

## 林業

平成17年4月1日現在の森林面積は34万3722.26haとなっています。所有形態別にみると、私有林が90.8%と大部分を占め、以下、公有林6.6%、国有林2.2%となっています。

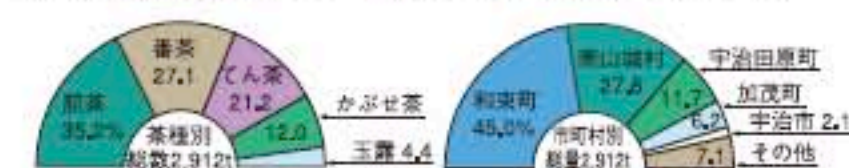
蓄積(立木の材積量)は6791万3219m<sup>3</sup>で、昭和40年の2530万8303m<sup>3</sup>の2.7倍となっています。

### 荒茶生産量・金額の推移



資料:府農産流通課(京都府茶業統計)

### 荒茶生産量の茶種別・市町村別割合(平成17年)



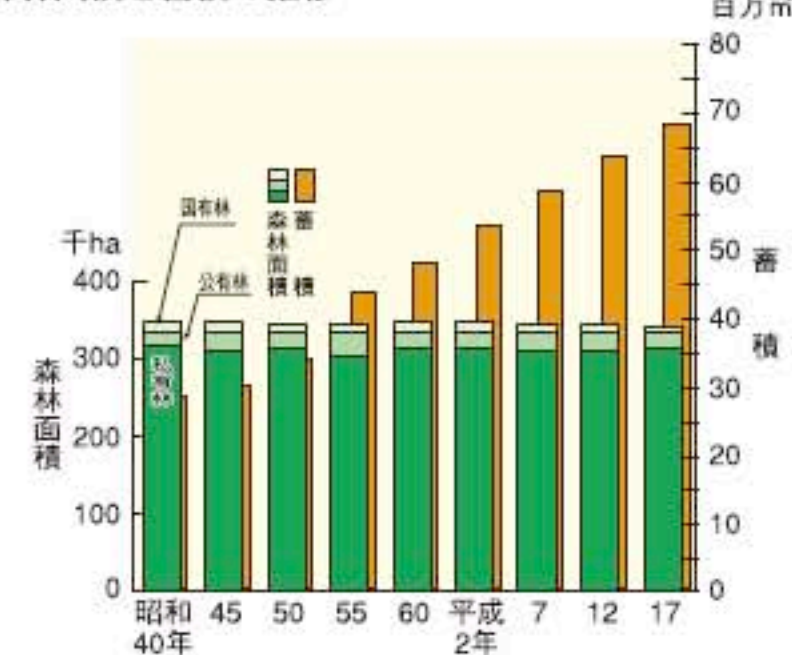
資料:府農産流通課(京都府茶業統計)

## 畜産

平成17年2月1日現在の主要家畜飼養農家数は、乳用牛130戸(対前年比3.0%減)、肉用牛168戸(同7.7%減)、豚23戸(前年同値)、採卵鶏1232戸(同63.4%増)、ブロイラー81戸(同92.9%増)となっています。

飼養頭羽数は乳用牛6427頭(同0.7%増)、肉用牛7321頭(同7.0%減)、豚1万9503頭(同17.1%増)、採卵鶏158万6288羽(同5.3%増)、ブロイラー54万9894羽(同0.8%減)となっています。

### 森林面積と蓄積の推移



注 各年4月1日現在。  
資料:府林務課(京都府林業統計)

# 漁業

## 漁業経営体数(海面)

平成16年1月1日現在の漁業経営体数は951経営体で、個人経営体が923経営体、97.1%、団体経営体が28経営体、2.9%となっています。

## 漁業世帯数(海面)

平成15年11月1日現在の漁業世帯数は1234戸で、自営漁業世帯が1020戸、82.7%、漁業従事者世帯が214戸、17.3%となっています。

自営漁業世帯の専業業別割合をみると、専業14.7%、兼業で漁業が主27.7%、漁業が従57.6%となっています。

## 生産量と生産額(海面)

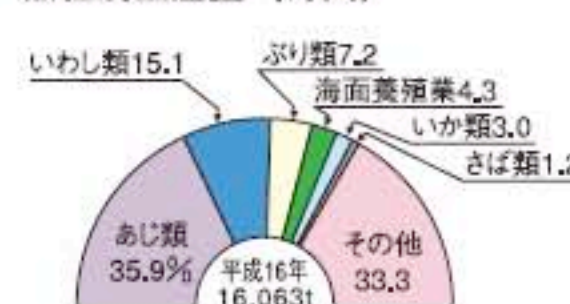
平成16年の生産量は1万6063tで、前年に比べ1165t、6.8%減少しました。

生産額は46億9400万円で、前年に比べ6億4600万円、12.1%減少しました。

### 生産量と生産額の推移(海面)

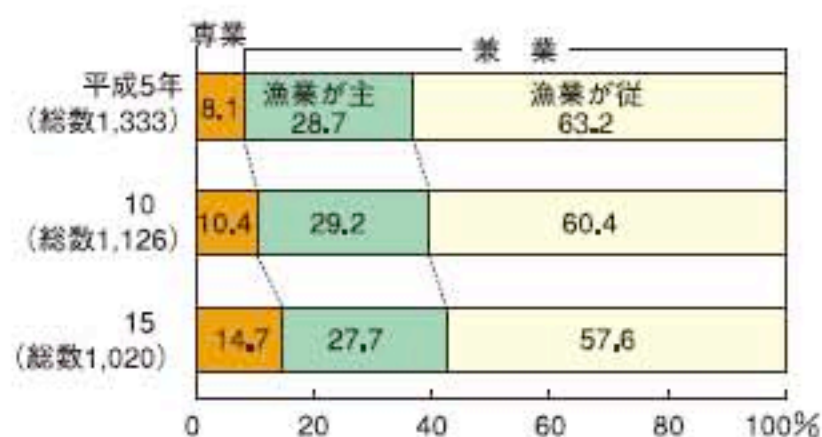


## 魚種別生産量(海面)



資料:近畿農政局(京都府漁業の動き)

### 自営漁業世帯の専業業別割合の推移



資料:近畿農政局(京都府漁業の動き)

## 漁業就業者(海面)

平成15年11月1日現在の漁業就業者は1470人で、このうち1346人、91.6%を占める男の年齢区分別割合をみると、60歳以上が58.0%、40~59歳が30.5%を占め、漁業労働の中核となっています。5年前の平成10年と比べると40~59歳が3.4ポイント低下しているのに対して、60歳以上では2.1ポイント上昇し、高齢化の傾向が顕著になっています。

### 漁業就業者(男)の年齢区分別割合の推移



資料:農林水産省(漁業センサス)

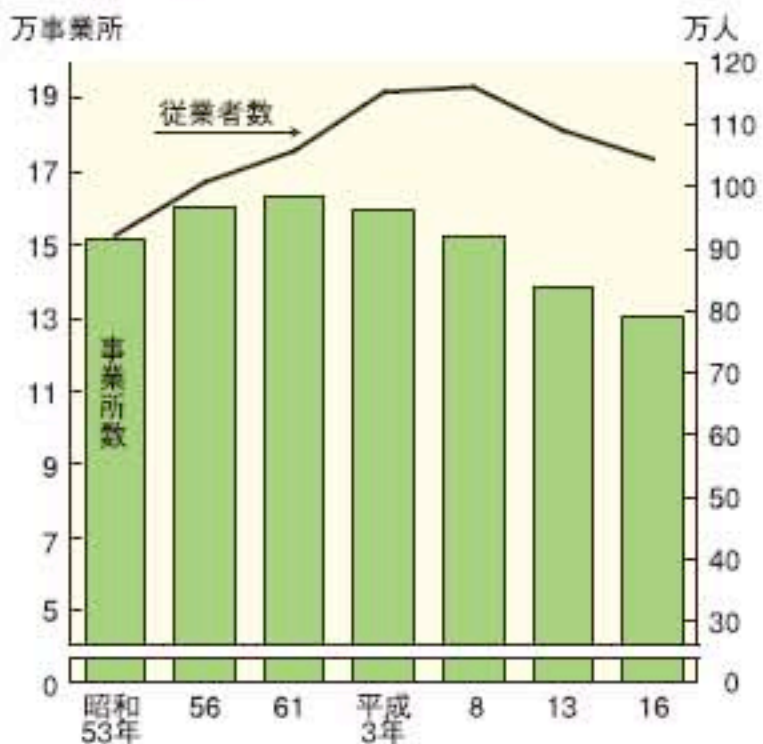
# 事業所

## 産業別事業所数と従業者数

平成16年6月1日現在の民営事業所数は13万267事業所で、前回調査（平成13年）に比べ5.8%減となりました。

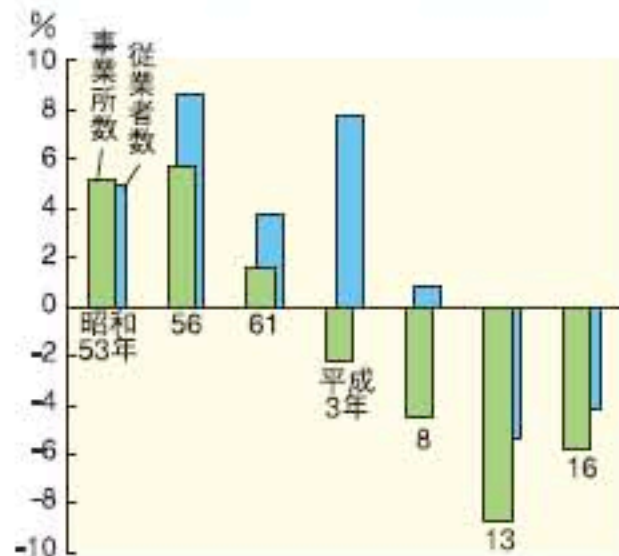
産業別にみると、卸売・小売業28.8%、サービス業16.8%、飲食店、宿泊業14.5%、製造業14.3%などとなっています。製造業で対前回比10.8%と大きく減少したのをはじめ、卸売・小売業が同7.1%、飲食店、宿泊業が同5.5%、サービス業が同1.3%それぞれ減少しました。

## 事業所数と従業者数の推移



注 個人経営の農林漁業を除く民営事業所。(平成16年は簡易調査)  
資料:総務省統計局(事務所統計調査)(平成8年からは事業所-企業統計調査)

## 事業所数と従業者数の対前回増加率



注 個人経営の農林漁業を除く民営事業所。(平成16年は簡易調査)  
資料:総務省統計局(事務所統計調査)(平成8年からは事業所-企業統計調査)

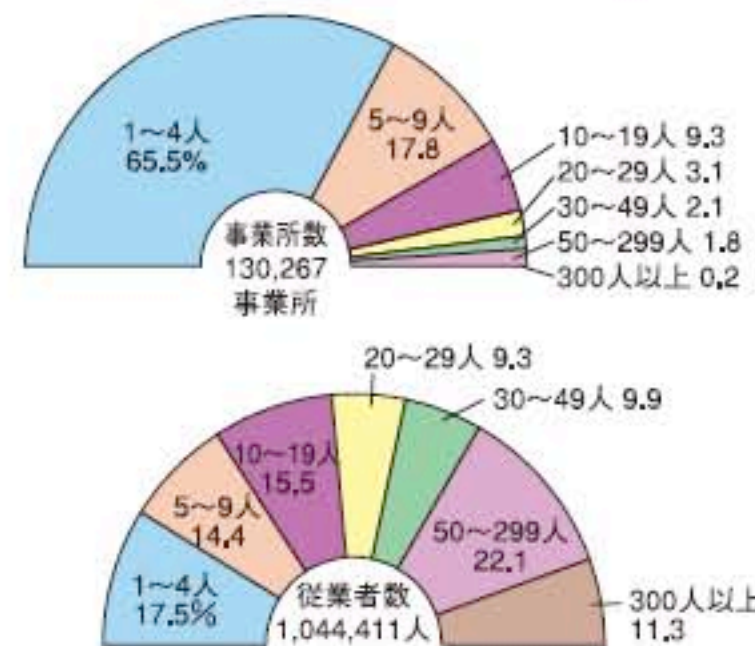
従業者数（民営事業所）は104万4411人で、前回に比べ4.2%減となっています。産業別にみると、卸売・小売業25.5%、製造業19.8%、サービス業13.2%、飲食店、宿泊業11.0%などとなっています。サービス業は13万7959人で対前回比0.5%増加しましたが、製造業は同9.8%減と大きく減少し、卸売・小売業は同5.3%、飲食店、宿泊業も同4.7%減少しました。

## 規模別事業所数と従業者数

従業者規模別に事業所数をみると、1~4人規模が8万5387事業所で全体の65.5%と最も高い割合を占め、次いで5~9人規模2万3151事業所、17.8%で、9人以下の規模で全体の83.3%となっています。

従業者数では50~299人規模が23万1238人で、全体の22.1%と最も高い割合を占めています。前回に比べ、30~49人規模、50~299人規模、300人以上規模を除くすべての規模で増加しました。

## 従業者規模別事業所数及び従業者数の構成比 (平成16年)



注 個人経営の農林漁業を除く民営事業所。  
資料:総務省統計局(事業所-企業統計調査)

# 工業

## 製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等 (従業者4人以上)

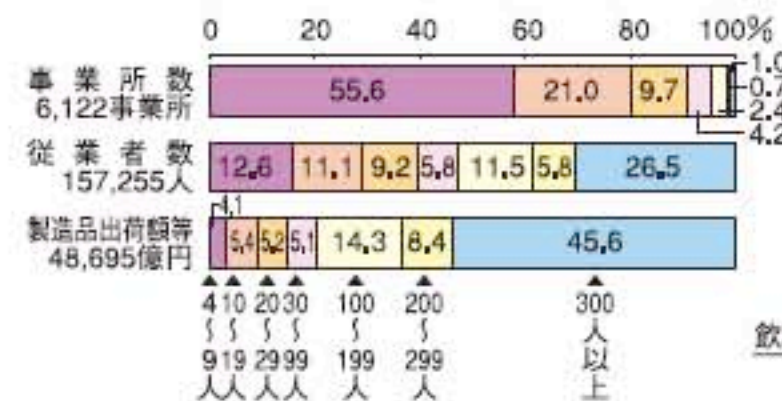
平成17年の製造業をみると、事業所数は6122事業所で、前年に比べ137事業所(2.3%)、従業者数は15万7255人で同674人(0.4%)それぞれ増加しました。製造品出荷額等は4兆8695億円で、前年に比べ535億円(1.1%)増で、2年連続で増加しました。

## 業種別・従業者規模別事業所数、従業者数、製造品出荷額等 (従業者4人以上)

業種別でみると、事業所数は繊維が全体の16.8%で最も多く、次いで一般機械10.8%、食料品10.7%となっています。従業者数は食料品が全体の13.4%で最も多く、次いで一般機械が11.6%となっています。製造品出荷額等は、飲料・たばこ・飼料が13.2%で最も多く、次いで一般機械10.1%となっています。

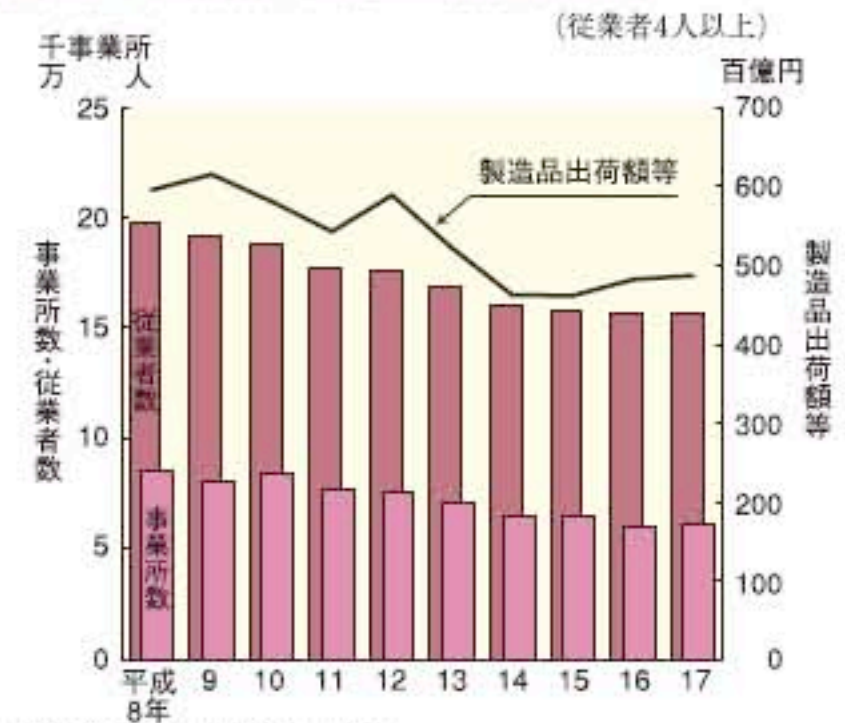
従業者規模別にみると、4~9人規模が事業所数の55.6%を占め、事業所数で1.0%の300人以上規模が従業者数では26.5%、製造品出荷額等では45.6%を占めています。

## 従業者規模別にみた事業所数・従業者数・製造品出荷額等 (従業者4人以上)



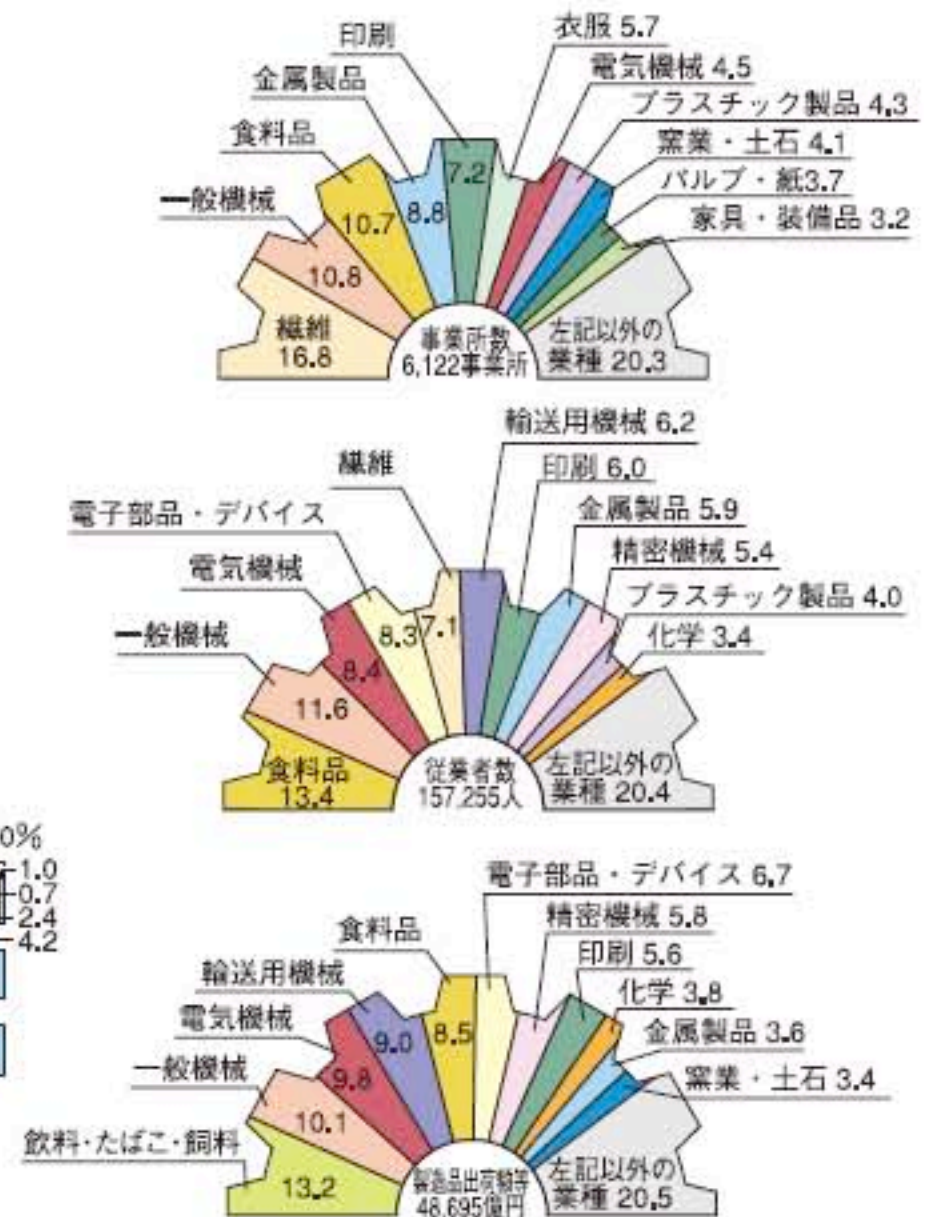
資料:府統計課(工業統計調査)

## 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移 (従業者4人以上)



資料:府統計課(工業統計調査)

## 業種別に見た事業所数・従業者数・製造品出荷額等 (従業者4人以上) (平成17年)



資料:府統計課(工業統計調査)

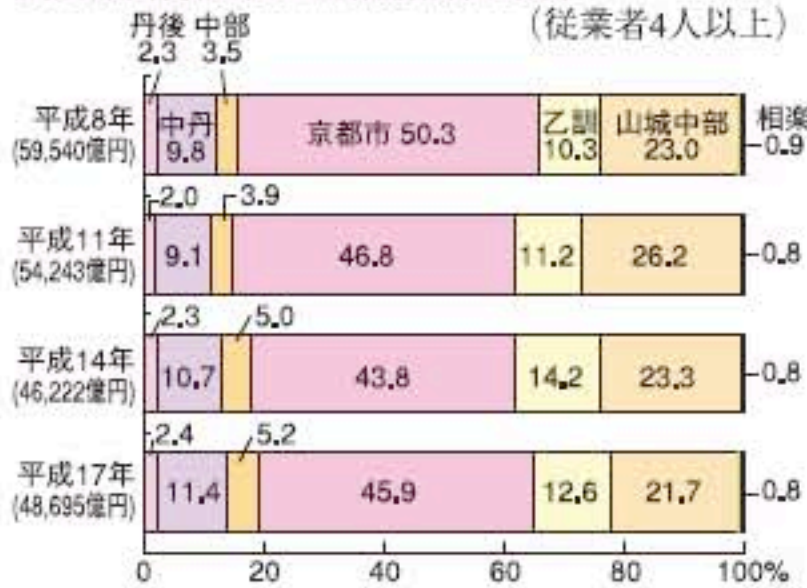
# 工業

## 地域別製造品出荷額等（従業者4人以上）

平成17年の製造品出荷額等を地域別にみると、京都市域が2兆2343億円（構成比45.9%）で最も多く、次いで山城中部地域1兆559億円（同21.7%）、乙訓地域6148億円（同12.6%）、中丹地域5542億円（同11.4%）、中部地域2509億円（同5.2%）、丹後地域1190億円（同2.4%）、相楽地域404億円（同0.8%）となっています。

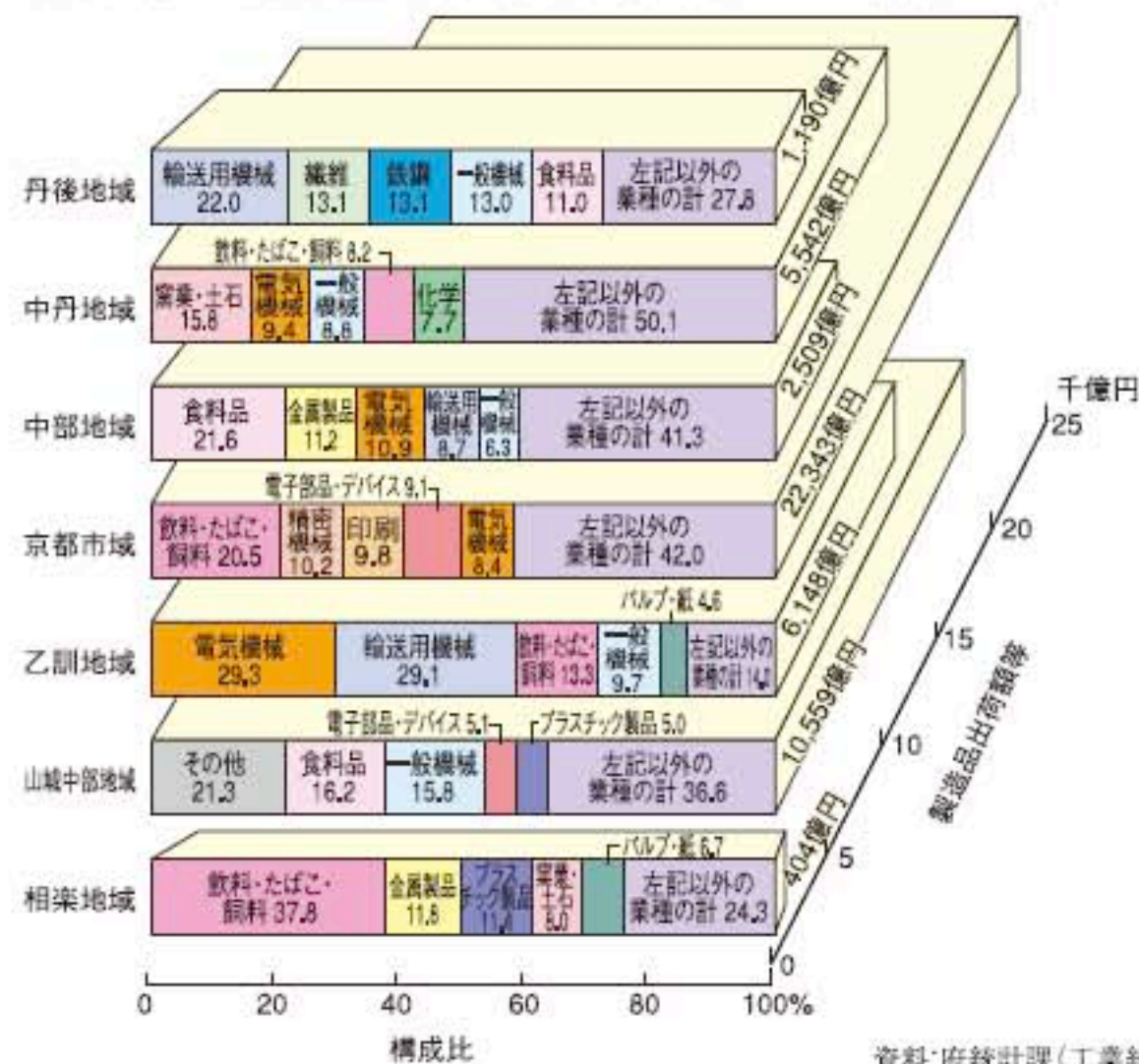
前年に比べると、山城中部地域で533億円（5.3%）、京都市域で78億円（0.4%）など6地域で増加しましたが、乙訓地域では221億円（3.5%）減少しました。

## 製造品出荷額等の地域別割合の推移（従業者4人以上）



資料:府統計課(工業統計調査)

## 地域別製造品出荷額等及び業種別構成比（従業者4人以上）（平成17年）



資料:府統計課(工業統計調査)

丹後地域……宮津市、京丹後市、与謝郡  
 中丹地域……福知山市、舞鶴市、綾部市、天田郡、加佐郡  
 中部地域……亀岡市、北桑田郡、船井郡  
 京都市域……京都市

乙訓地域……向日市、長岡京市、乙訓郡  
 山城中部地域……宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久世郡、綴喜郡  
 相楽地域……相楽郡

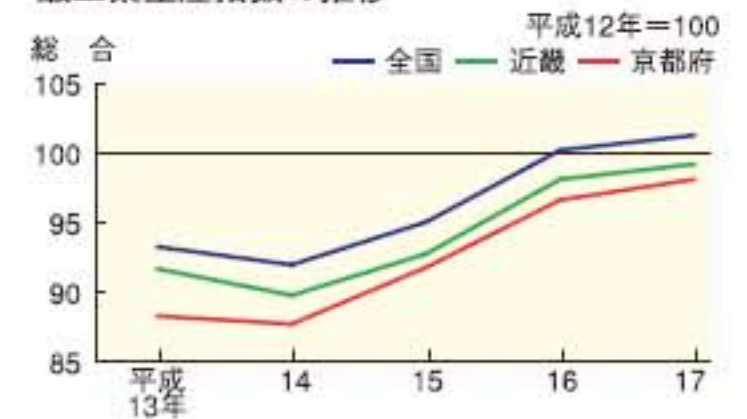
# 工業

## 鉱工業生産指数

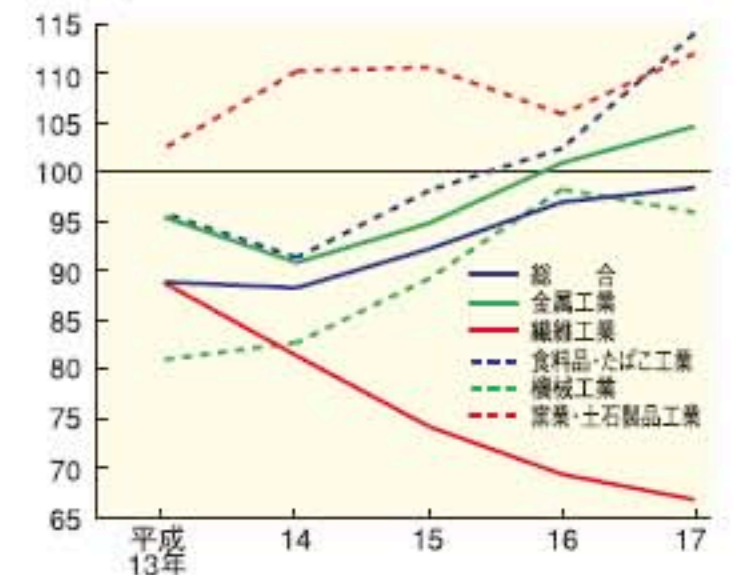
平成17年の鉱工業生産指数は98.1（平成12年=100）で前年に比べ1.7%増となり、全国でも101.3で同1.1%増となりました。

主要業種についてみると、金属工業は105.2で前年に比べ3.6%増、機械工業は96.0で同2.3%減、繊維工業は67.0で同3.6%減、窯業・土石製品工業は111.9で同4.5%増、食料品・たばこ工業は114.6で同11.2%増となりました。

## 鉱工業生産指数の推移



## 主要業種



資料:経済産業省、府統計課(鉱工業生産指数)

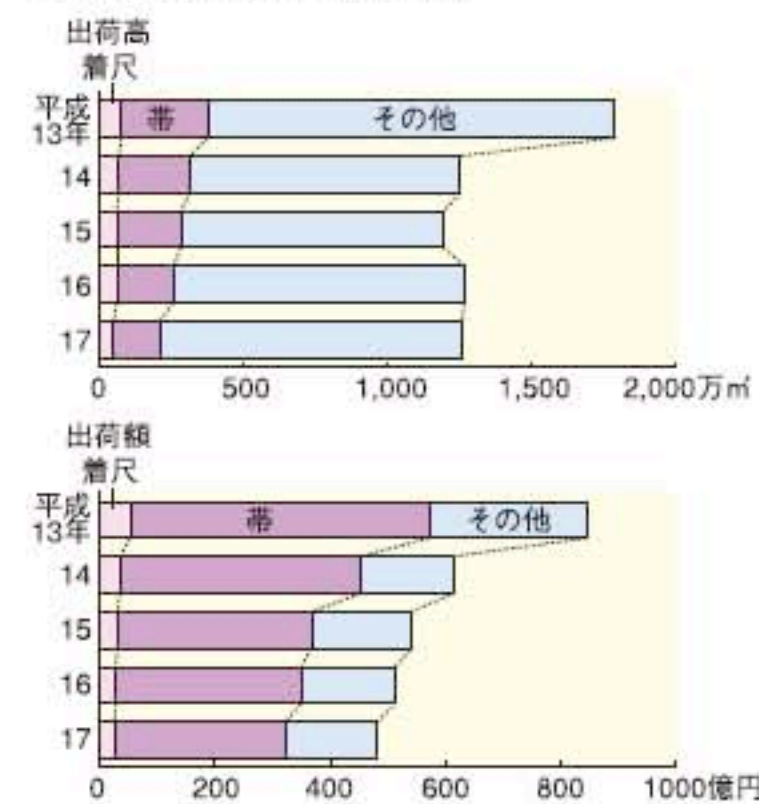
## 織物（西陣・丹後）の出荷状況

### —西陣—

平成17年の織物の出荷状況は、出荷高1279万㎡、出荷額481億円となっています。

品目別にみると、着尺は出荷高54万㎡（前年比9.1%減）、出荷額26億円（同9.9%減）、帯は出荷高175万㎡（同10.5%減）、出荷額296億円（同7.4%減）、着尺と帯以外は出荷高1050万㎡（同3.9%増）、出荷額158億円（同3.7%減）となっています。

## 出荷高・出荷額の推移（西陣）

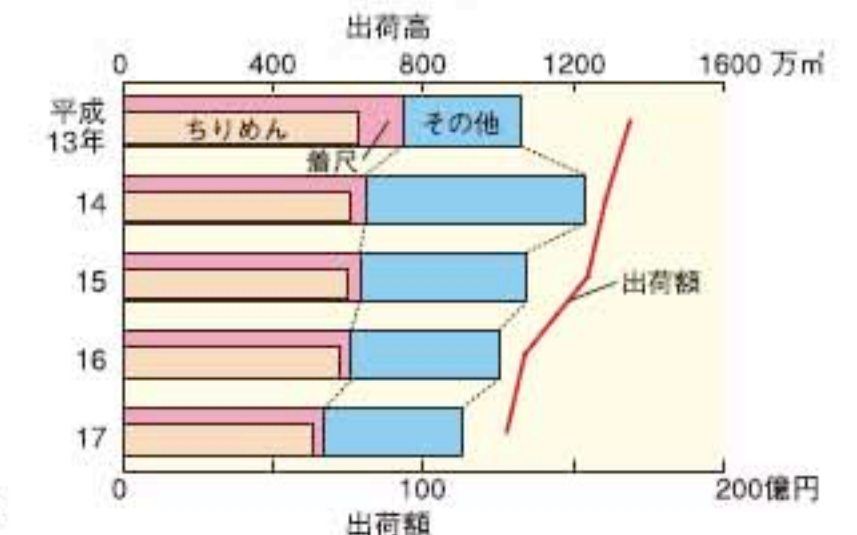


資料:府統計課(京都府織布生産動態統計調査)

### —丹後—

平成17年の織物の出荷状況は、出荷高940万㎡（前年比5.9%減）、出荷額128億円（同5.9%減）となっています。このうち「ちりめん」をみると、出荷高546万㎡（同5.2%減）、出荷額93億円（同4.2%減）で、それぞれ全体の58.0%、73.1%を占めています。

## 出荷高・出荷額の推移（丹後）



資料:府統計課(京都府織布生産動態統計調査)

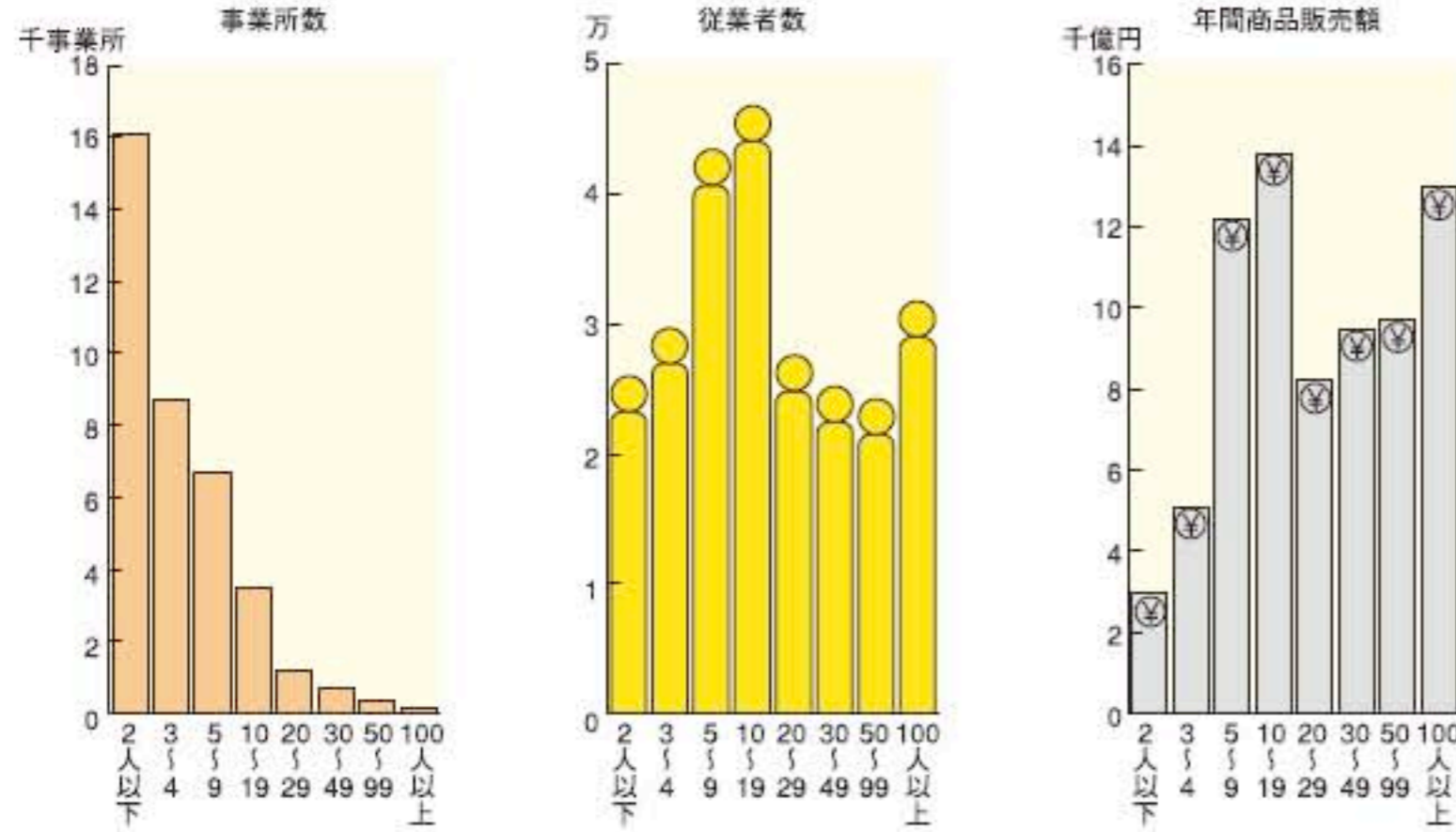
# 商業（卸売・小売業）

## 卸売・小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額

平成16年6月1日現在の事業所数は3万7377事業所、従業者数は25万4510人、年間商品販売額（15年4月1日～16年3月31日）は7兆4487億円となっています。

従業者規模別にみると、事業所数は2人以下の規模が43.1%を占め、従業者数では10～19人規模が18.4%、年間商品販売額では10～19人規模が18.6%といずれも最も多くなっています。

## 従業者規模別事業所数・従業者数・年間商品販売額（卸売・小売業）（平成16年）



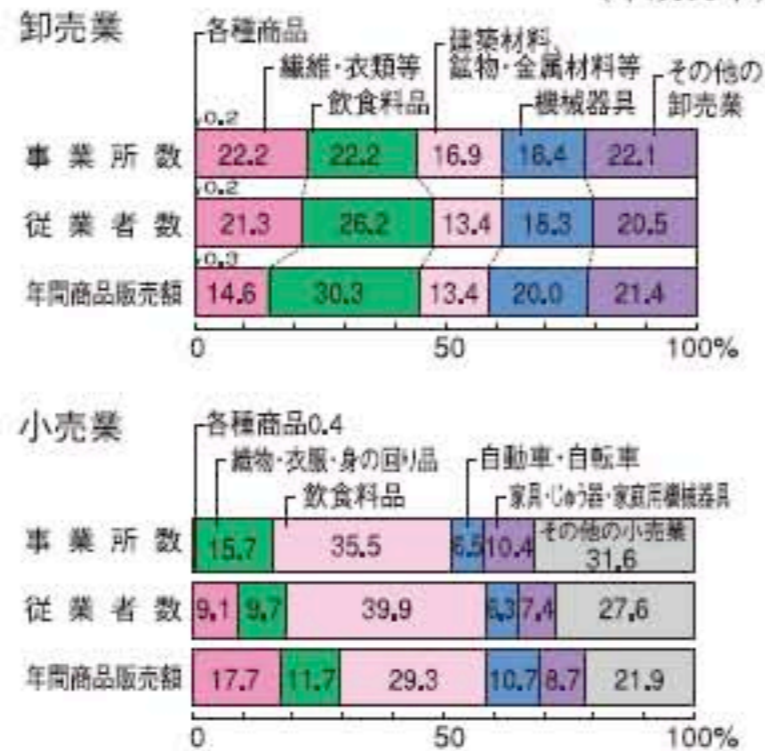
資料:府統計課(商業統計調査)

## 業種別年間商品販売額

業種別年間商品販売額をみると、卸売業は飲食料品卸売業が1兆3347億円で最も多く全体の30.3%を占め、次いでその他の卸売業が9453億円（構成比21.4%）、機械器具卸売業が8831億円（同20.0%）などとなっています。

小売業は飲食料品小売業が8911億円で最も多く全体の29.3%を占め、次いでその他の小売業が6667億円（同21.9%）、各種商品小売業が5376億円（同17.7%）などとなっています。

## 業種別事業所数・従業者数・年間商品販売額（平成16年）



資料:府統計課(商業統計調査)

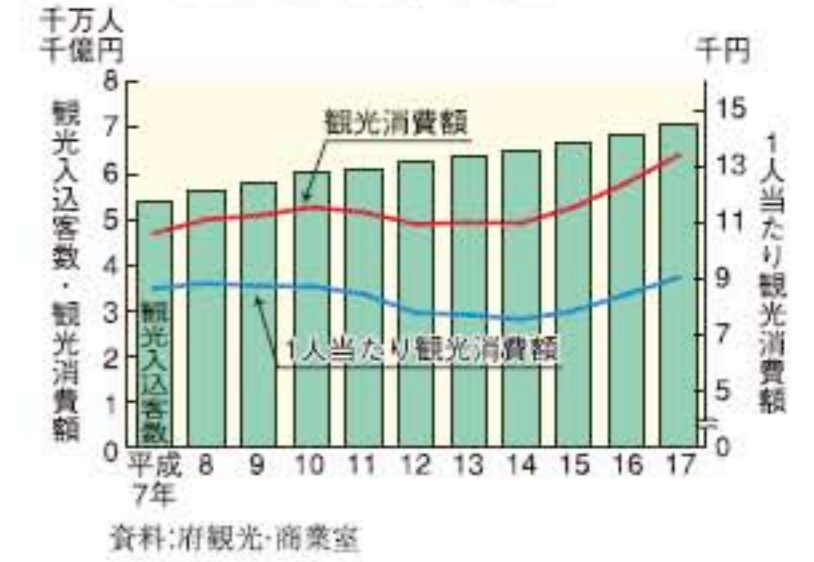
# 観光

## 観光入込客数と観光消費額

平成17年の京都府内への観光入込客数は7088万人で、そのうち府外からの客が5421万人、76.5%、また、日帰客が5667万人、79.9%を占めています。

観光消費額は6409億円で、観光入込客1人あたりでは9042円となっています。

## 観光入込客数と観光消費額の推移



資料:府観光・商業室

## 旅館・ホテルの施設数と客室数の推移



注:平成8年までは12月末現在、9年以降は年度末現在。  
資料:府生活衛生室、京都市生活衛生課

## 旅館・ホテルの施設数と客室数

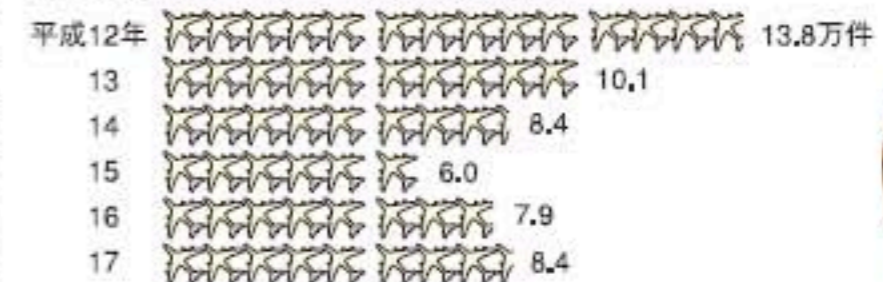
平成17年度末の旅館数及び客室数は858施設、1万1919室で、前年に比べ45施設、428室の減となりました。一方、ホテルは167施設、1万8545室で、前年に比べ4施設、394室の増となりました。

1施設当たりの客室数は、旅館13.9室、ホテル111.0室となっています。

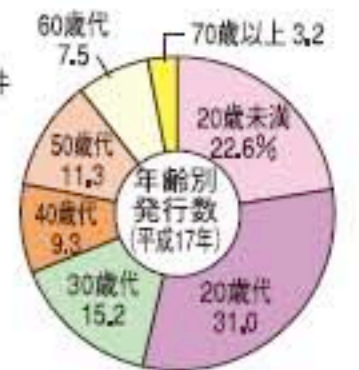
## 旅券発行の状況

平成17年に発行した旅券は8万3743件で、前年に比べ4437件、5.6%増加しました。年齢別にみると、20歳代が31.0%を占め、次いで20歳未満22.6%、30歳代15.2%となっています。

## 旅券発行数の推移、年齢別発行割合



1枚 = 1万件

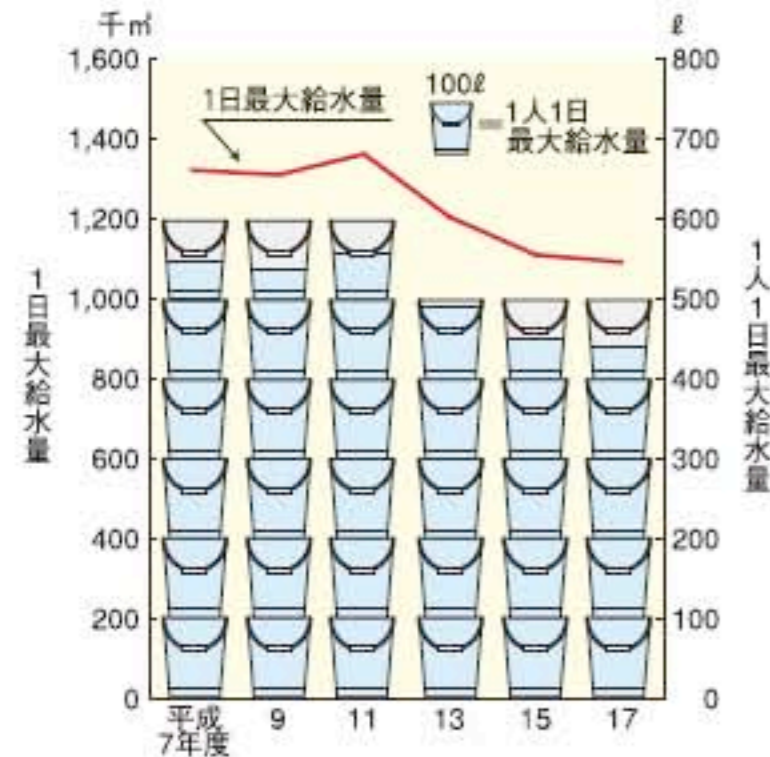


資料:府旅券事務所(旅券発給の概要)

上水道の給水量

平成17年度の実績年間給水量は3億4900万㎡で、1日最大給水量は109万767㎡、1人1日最大給水量は445ℓ、1人1日平均給水量は390ℓとなっています。

1日最大給水量の推移(上水道)

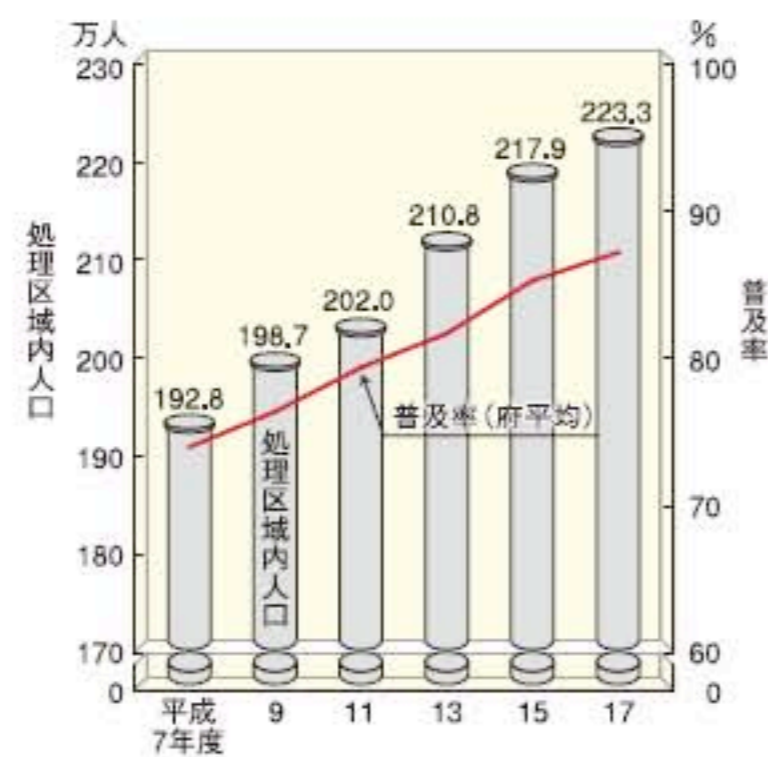


資料:府生活衛生室

公共下水道の普及率

平成17年度末の処理区域内人口は223万3000人、処理区域面積は3万405ha、普及率は87%となっています。

公共下水道の処理区域内人口と普及率の推移

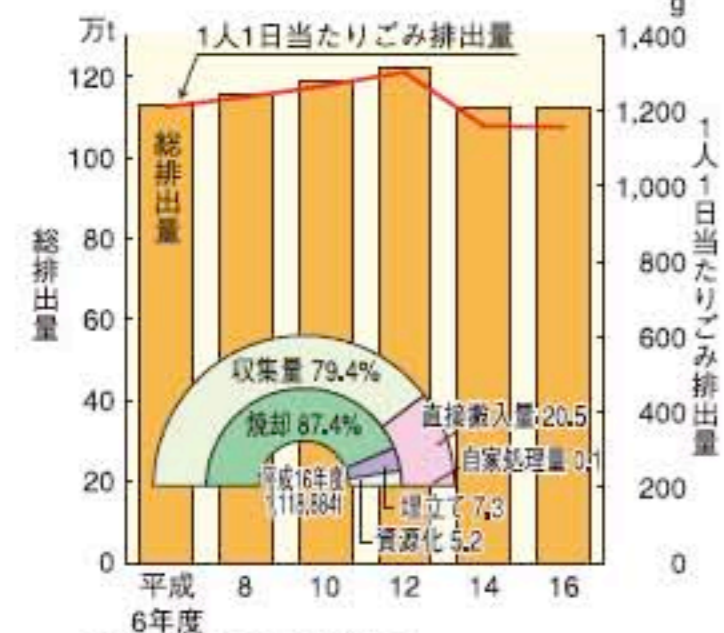


注:各年度末現在。資料:府下水道課

ごみ排出量

ごみの排出量は、平成16年度は111万8884t、1人1日当たりの排出量は1154gと前年度に比べ7g増加しました。処理内訳では前年度に比べ焼却の割合が減少しています。

ごみ排出量の推移

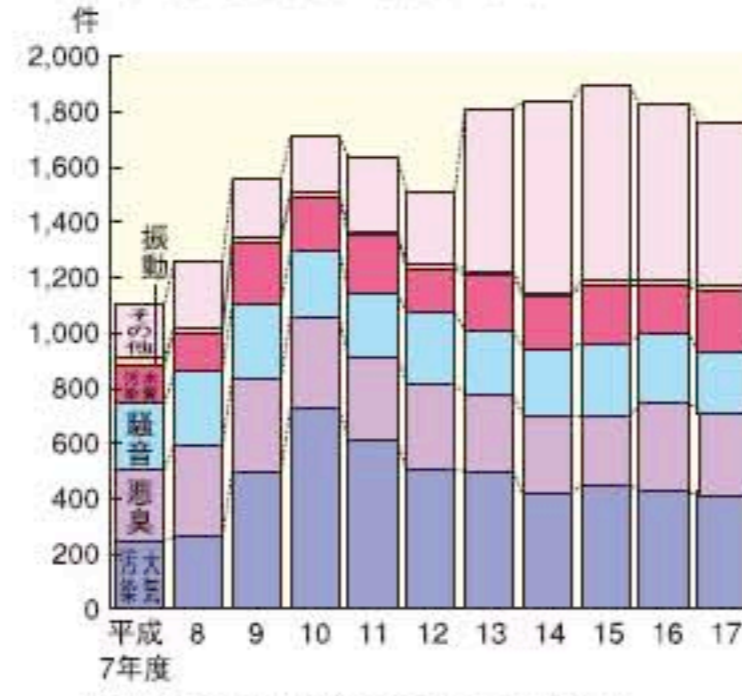


資料:府循環型社会推進室

公害の種類別苦情受理件数

平成17年度に市町村が受理した公害に関する苦情件数は1751件で、前年度に比べ79件減少しました。

公害の種類別苦情受理件数の推移

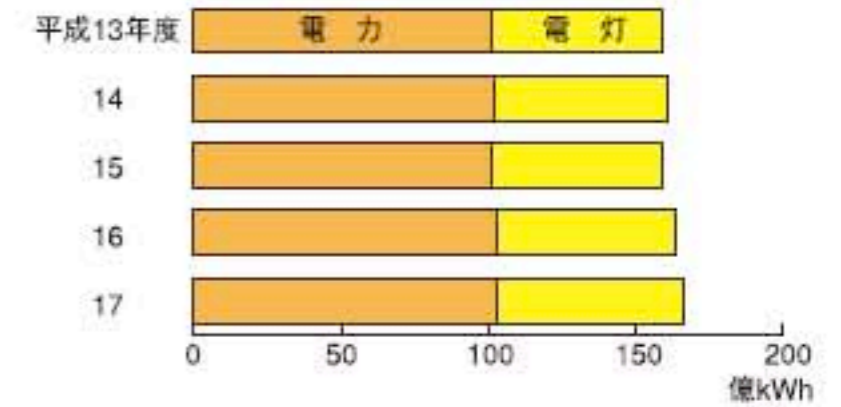


資料:府自然・環境保全室、京都市環境指導課

販売電力量

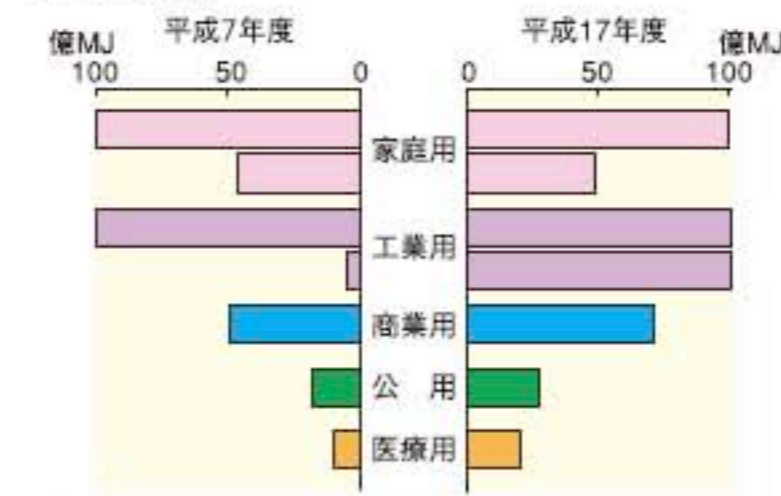
平成17年度の販売電力量は166億3893万kWhで、前年度に比べ1.9%増加しました。このうち電力は103億882万kWhで0.5%、電灯は63億3011万kWhで4.4%それぞれ増加しました。

販売電力量の推移



注:京都支店管内(小浜営業所エリアを除く)の販売実績である。資料:関西電力京都支店

ガス消費量



注:平成7年度は現在の単位(MJ)に換算した数値。資料:大阪ガス、丹後瓦斯、福知山市、長田野ガスセンター

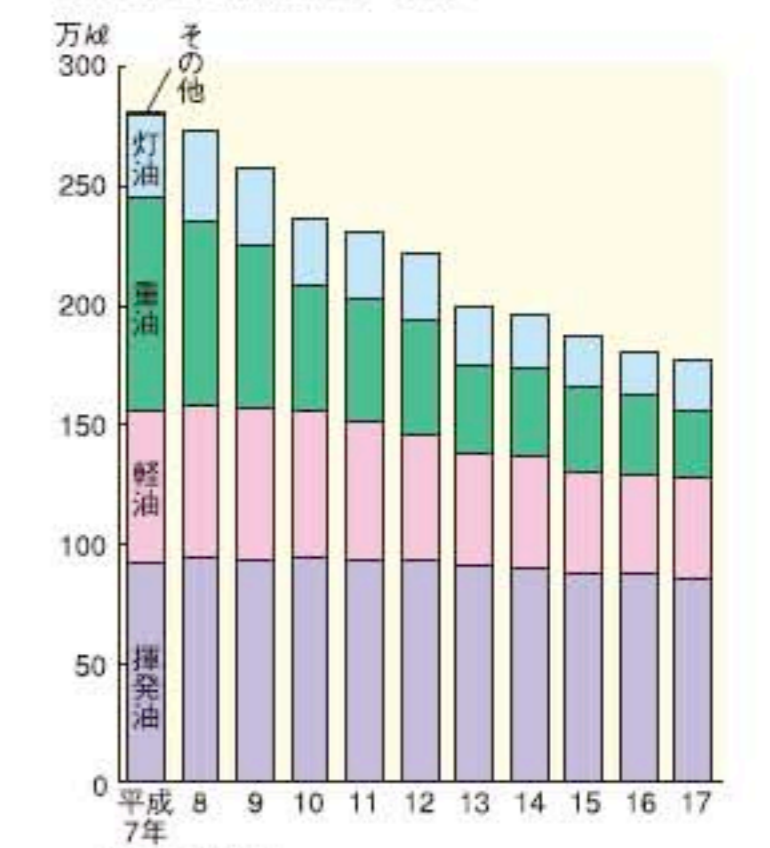
ガス消費量

平成17年度のガス消費量は469億6725万MJで、前年度に比べ10.3%増加しました。用途別にみると、工業用が200億8817万MJで全体の42.8%を占め、次いで家庭用149億3700万MJ(構成比31.8%)、商業用71億5625万MJ(同15.2%)、公用27億8729万MJ(同5.9%)、医療用19億9855万MJ(同4.3%)となっています。

石油販売量(燃料油)

平成17年の石油販売量(燃料油)は177万1739ℓで、前年に比べ2.1%減少しました。油種別にみると、揮発油が47.9%を占め、次いで軽油24.1%、重油16.1%、灯油11.7%などとなっています。平成7年以降の推移をみると、減少傾向が続いています。

石油販売量(燃料油)の推移



資料:石油連盟

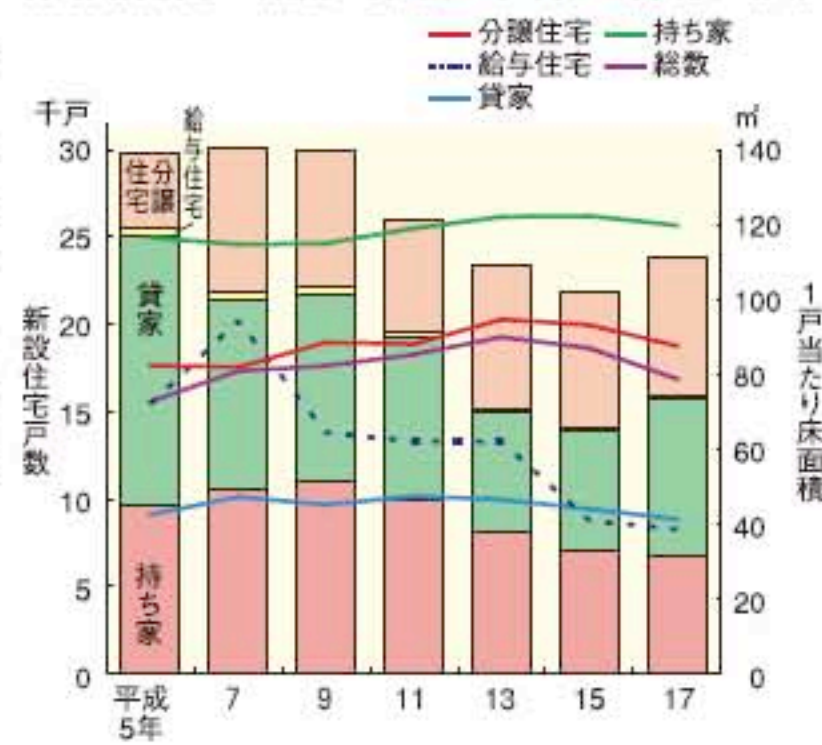
# 住宅

## 着工新設住宅戸数と1戸当たり床面積

平成17年の着工新設住宅戸数は2万3766戸で、前年に比べ353戸、1.5%増加しました。利用関係別にみると、貸家が9117戸（構成比38.4%）で最も多く、次いで分譲住宅7882戸（同33.2%）、持ち家6693戸（同28.2%）、給与住宅74戸（同0.3%）となっています。

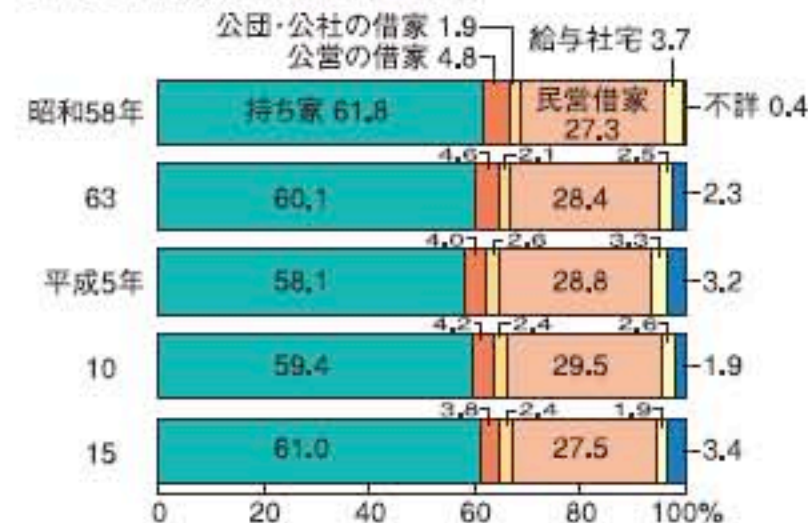
1戸当たり床面積をみると、全体では78.7㎡で前年より3.6㎡減少しました。利用関係別では、持ち家119.8㎡、分譲住宅87.6㎡、給与住宅38.6㎡、貸家41.3㎡となっています。

利用関係別着工新設住宅戸数と1戸当たり床面積の推移



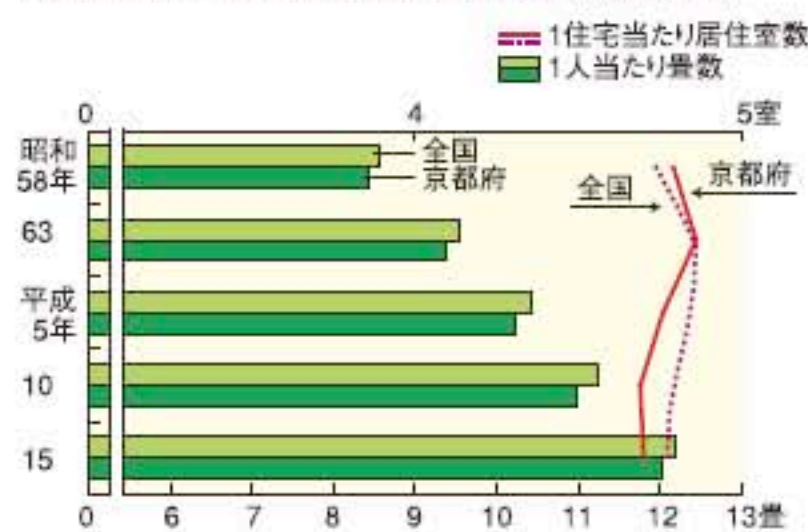
資料:国土交通省(建築統計年報)

## 住宅の所有関係別割合の推移



注 各年10月1日現在。  
資料:総務省統計局(住宅統計調査)  
(平成10年からは住宅・土地統計調査)

## 1住宅当たり居住室数及び1人当たり畳数の推移



注 各年10月1日現在。  
資料:総務省統計局(住宅統計調査)  
(平成10年からは住宅・土地統計調査)

## 住宅の所有関係別割合

平成15年10月1日現在の総住宅数は120万1100戸で、このうち居住世帯のある住宅103万4000戸を所有関係別にみると、持ち家が63万3000戸で最も多く、61.0%を占めています。次いで民間借家28万4300戸（構成比27.5%）、公営の借家3万9700戸（同3.8%）、公団・公社の借家2万5100戸（同2.4%）、給与住宅1万9300戸（同1.9%）となっています。

## 1住宅当たり居住室数と1人当たり畳数

平成15年10月1日現在の1住宅当たり居住室数は4.70室で、平成10年の4.69室から0.01室増加しています。1人当たりの畳数は12.01畳で10年の10.99畳に比べ1.02畳増加しています。

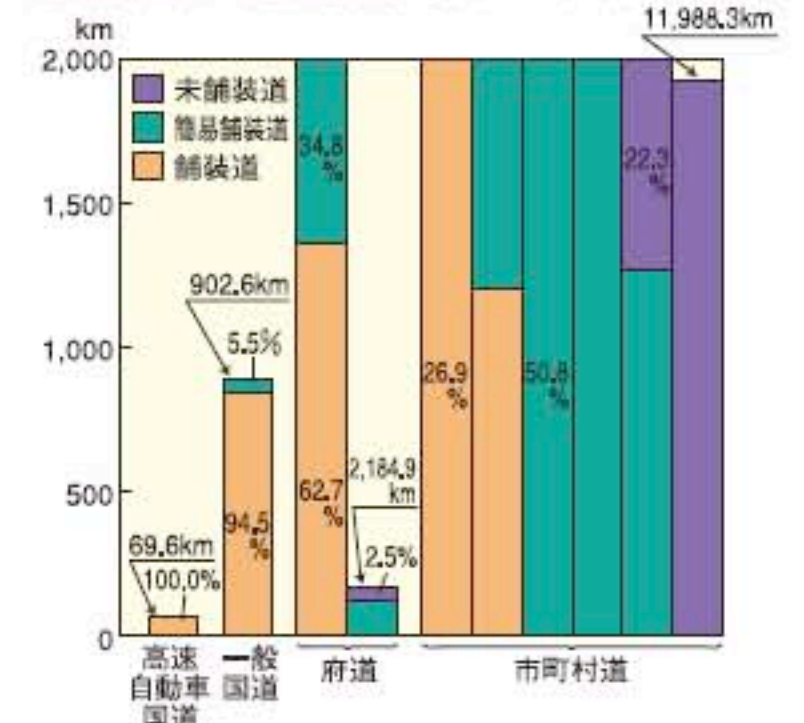
所有関係別にみると、持ち家5.88室、13.11畳、借家（公営、公団・公社、民間、給与住宅）2.70室、8.97畳となっています。

# 道路・運輸

## 道路実延長と道路舗装率

京都府内の道路実延長は平成17年4月1日現在1万5145.4kmで、その内訳は、高速自動車国道69.6km、一般国道902.6km、府道2184.9km、市町村道1万1988.3kmとなっています。道路整備は年々進んでおり、道路舗装率（簡易舗装を含む）は、高速自動車国道と一般国道100%、府道97.5%、市町村道77.7%となっています。

道路実延長と道路舗装率(平成17年4月1日現在)



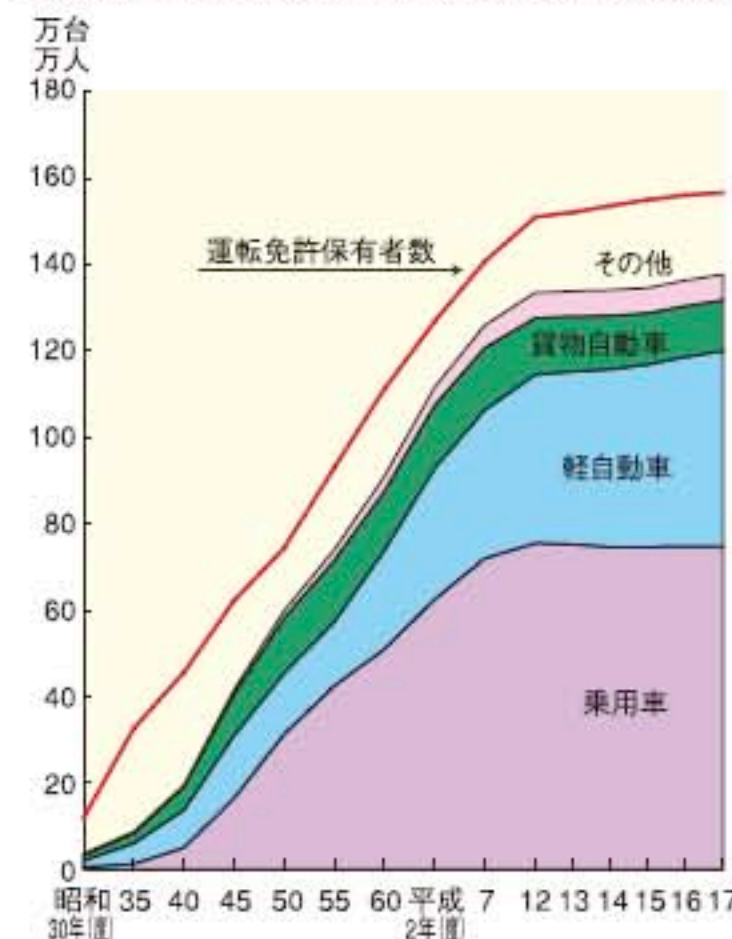
資料:国土交通省(道路統計年報)

## 自動車保有台数、運転免許保有者数

平成17年度末の自動車保有台数は137万6895台で、1世帯当たり1.3台保有していることになります。乗用車（軽四輪を除く）は74万7200台と全体の54.2%を占めています。

運転免許保有者数は17年12月末に156万6480人になり、免許適齢人口（16歳以上）の府民1.44人に1人の割合で免許を保有していることになります。

## 用途別自動車保有台数と運転免許保有者数の推移

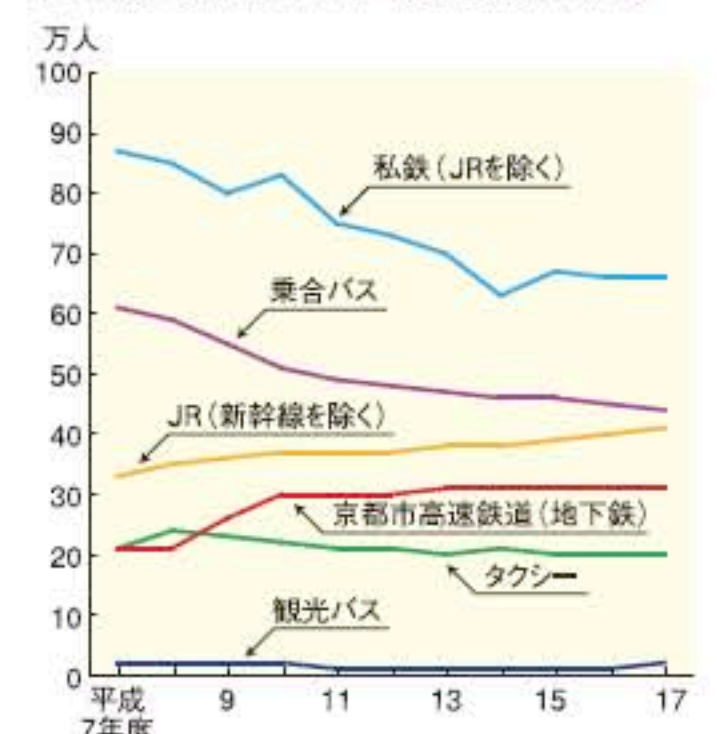


注 自動車保有台数は各年度末現在、運転免許保有者数は各年末現在。  
資料:府警察本部(交通統計)、近畿運輸局京都運輸支局(自動車保有台数)

## 公共輸送機関の1日平均利用者数

平成17年度の公共輸送機関の1日平均利用者数は、JR（新幹線を除く）41万人、私鉄（JRを除く）66万人、乗合バス44万人、タクシー20万人、京都市高速鉄道（地下鉄）31万人となっています。また、観光バスの1日平均利用者数は2万人となっています。

## 公共輸送機関の1日平均利用者数の推移



注 各年度の乗客数を年間日数で除して算出した。  
資料:近畿運輸局京都運輸支局、京都市交通局、西日本旅客鉄道、各私鉄会社